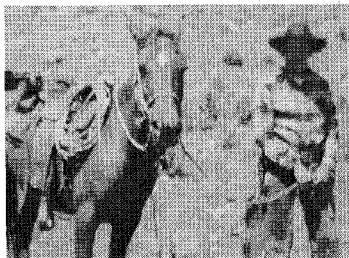
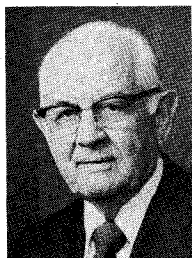


聖徒の道

6 1981



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
ローレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー
F・エンツィオ・ブッシェ

国際機関誌

編集主幹：
ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：
デビッド・ミッチェル
子供の頁編集：
ボニー・ソーンダース
デザイナー：
ロジャー・ギリング
制作：
ノーマン・ブライス

も く じ

予言者に従う14の原則……………エズラ・タフト・ベンソン…………… 1
お父さん帰ってきて……………ティーン・P・スミス…………… 9
ナイジェリアの教会員……………アンソニー・ウソディマ・オビナ……………10
「どうぞ、子供の先生を……………グラティス・C・ファーマー……………14
祝福して下さい」
逆境に会うとき……………スティーブ・ダン・ハンソン……………18
草原のあらし……………ダイアン・セイドラップ……………21
マイ・ミュージック……………24
こども交通公園……………バーバラ・ホーングレン……………27
福音を分かち合う簡単な方法……………ティーン・V・ジェイコブス……………29
監督、父、ヨット……………デビッド・ハモンド……………32
山の上のあかり……………ビクター・L・ブラウン……………37
日の光栄の宣教師……………ジョン・ジャーマン……………40
ローカル・ニュース……………44

表紙の説明

ナイジェリアの教会員の様子を伝えるスナップ。

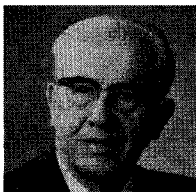
聖徒の道 6月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5—10—30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4—9—19
定 価 年間子約2,200円
海外子約2,200円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0584 JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0—41512
口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

予言者に従う14の原則



十二使徒定員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

愛する兄弟姉妹の皆さん、こうして皆さんの前に立つことは、実に名誉なことです。皆さん方学生は、主より選ばれた若き世代、すなわち主の再臨を目の当たりにするかもしれない世代です。

教会は現在、数において発展しているだけでなく、忠実さにおいても進歩成長しています。さらに大切なことは、教会の若い世代が一同となって、これまでの世代の人人をはるかにしのぐ忠実さを示していることです。神は第11時の時、すなわち「主の大いなるおそるべき日」（教義と聖約110：16）のために皆さんを天にとどめておかれたのです。皆さんには、神の王国を勝利へと導く責任だけでなく、自分の身と霊とを救い、家族を救うために努力し、靈感により打ち立てられた合衆国憲法を遵守するという責任が課せられています。

皆さんの前途には厳しい試練が横たわっています。皆さんがそれを乗り越えることができるように、私はひとつの大切な鍵を

様々な面から取り上げて紹介したいと思います。もし皆さんがこの鍵を大切に扱えば、神の栄光を授かり、サタンのも屈せずに勝利を得ることでしょう。

私たちが敬愛する予言者は、まもなく85歳の誕生日を迎えようとしておられます。教会の讃美歌には、「感謝を神に捧げん 予言者の導き」（讃美歌170番）と歌われています。大切な鍵は、予言者に従うということです。それではこれから、予言者すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に従う上で基本となる14の原則についてお話ししましょう。

1. 予言者はすべての事柄について主と語れる唯一の人である。

教義と聖約の第132章7節の中で、主は予言者、すなわち大管長について次のように述べておられます。

「この権能とこの神権の鍵とを授与される者はこの世に於て一代唯一人のほかにあ

ることなし。」

さらに第21章4—6節で次のように宣言しておられます。

「この故に汝ら教会員は、彼が上より受くるままに汝らに与うる誠命と彼の言とを皆心にとめてよく聞き、わが前に全く聖き道を履むべきなり。」

そは彼の言は、汝ら全き忍耐と信仰とを以て、あたかもわが口より聞くが如くにこれを受け入るべきなればなり。

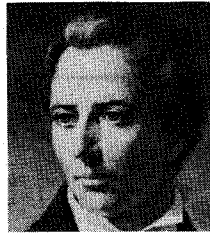
これらのことを為さば、地獄の門も汝らに打勝たざるべし。」

2. 生ける予言者は、私たちにとって標準聖典よりも重要である。

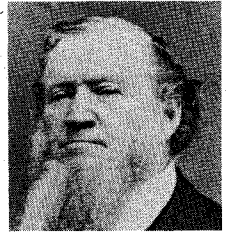
ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、予言者ジョセフ・スミスの時代に起こったひとつの興味深い出来事を紹介しています。

「カートランドの町で私が若い頃に出席したある集会についてお話ししよう。その集会では、今日この場で行なわれたように、生ける予言者と記録された神のみ言葉に関する説教が行なわれた。ひとりの指導者が立ち上がり、きょうの話ほど広範囲に渡るものではなかったが、その主題について話をし、同じ原則を提示した。彼は次のように語った。『皆さんの前には、聖書やモルモン経、教義と聖約に記された神のみ言葉があります。皆さんは神のみ言葉を手にしているのです。これらの書物に記されていることは神のみ言葉ですから、啓示を与える人は、これらの書物に従った啓示を与えるなければなりません。』

その人の話が終わると、ジョセフ兄弟はブリガム・ヤング兄弟の方を見て、こう言った。『ブリガム兄弟、説教壇に立って、生ける予言者と聖典に記された神のみ言葉に



ジョセフ・スミス



ブリガム・ヤング

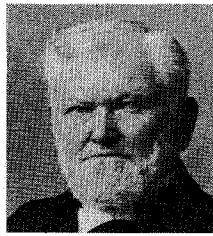
ついてあなたの意見を聞かせて下さい。』ブリガム兄弟は立ち上がると聖典を手に取り、それから下に置いた。次にモルモン経を手に取り、それも下に置いた。さらに教義と聖約を手にとると、それも自分の前に置き、こう言った。『これらの書物は私たちに与えられた神のみ言葉です。創世の始めからほぼ今日に至るまでの神のみ業が記されています。しかし、生ける予言者とこれらの書物を比較するのは、私にとって全く意味のないことです。これらの聖典は、今日この時代において予言者や聖なる神権を有する人が語る言葉のように、直接私たちに神のみ言葉を伝えてはくれないのです。』これが話のあらましだった。話が終わると、ジョセフ兄弟が会衆に向かって言った。『ブリガム兄弟は皆さんに主のみ言葉を告げました。真理を語ったのです。』(Conference Report 「大会報告」1897年10月号, pp. 18—19)

3. 私たちにとって生ける予言者は、過去の子言者よりも大切である。

アダムに与えられた神の啓示は、ノアに箱舟の造り方を指示するものではありません。ノアは自分自身の啓示を必要としたのです。したがって最も大切な予言者は、皆さんや私について言えば、現代の生ける予言者、すなわち主が私たちに关するみこころを現在あらわしておられる予言者です。そして私たちにとって最も大切な読み物は、



ジョン・テイラー



ウィルフォード・
ウッドラフ

毎月「聖徒の道」に掲載される生ける予言者の言葉です。また6カ月ごとに私たちに為すべきことを教えてくれるのは、「聖徒の道」大会特集号の大会説教です。

現代の予言者に対抗して過去の予言者の肩を持つとうとする人には注意して下さい。常に生ける予言者が優先します。

4. 予言者は教会員を背教へと導くことはない。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は次のように述べています。

「イスラエルの民に申し上げる。主は私や大管長である他の人々が教会を背教へ陥れるのをお許しにならない。それは主のプログラムではないし、神のみこころではない。」(The Discourses of Wilford Woodruff 「ウィルフォード・ウッドラフ説教集」 pp.212—13)

マリオン・G・ロムニー副管長は、自分自身の経験を次のように語っています。

「私が何年も昔に監督を務めていた時の経験を紹介しよう。私はヒーバー・J・グラント大管長をワード部に招いて話をしてもらった。集会が終わると、車で彼の家まで送って行った。……グラント大管長は私のそばに立ち、私の肩に腕をまわしてこう言った。『マリオン、教会の大管長にいつも目を向けていなさい。そして大管長が何かするように言ったら、それが間違いであ

っても、実行しなさい。そうすれば、主から祝福を受けるでしょう。』グラント大管長は瞳をきらりと光らせて、言葉を続けた。

『でも、心配する必要はありません。主の代弁者が主の民を背教へ陥れるようなことを、主は決してお許しにならないのですから。』(Conference Report「大会報告」1960年10月、p.78)

5. 予言者はいかなる主題について語る時も、またいかなる行動を起こす時も、特別にこの世的な訓練や教育を受ける必要はない。

ある事柄について神から予言者に与えられた天の知識よりも、この世の知識の方が優れていると感じる人が時々います。そのような人は、予言者がこの世の学問と矛盾する話をする時、心の中で、予言者も自分たちのようにこの世的な訓練や教育を受ける必要があると思いつつ、その話を受け入れます。ジョセフ・スミスには、どれほどの学問があったのでしょうか。にもかかわらず、彼は森羅万象にわたる啓示を伝えたのです。これまでいかなる分野であれ、博士号を取得した予言者はいませんでした。私たちは多くの分野でこの世の知識を修めるように勧められていますが、これだけは忘れないで下さい。もしこの世の知識と予言者の言葉が対立するようなことがあったら、予言者に従うことです。そうすれば祝福を受け、皆さんが正しいことは、時が証明してくれるでしょう。

6. 予言者は私たちに聖文を与える時に、必ずしも「主かくのごとく言う」と宣言する必要はない。

このことについて論争する人を時々見か

けます。彼らの話によれば、予言者は勧告を与えるが、それが戒めであると宣言されない限り、守る義務はないというのです。しかし、主は予言者ジョセフ・スミスについて次のように述べておられます。「彼が上より受くるままに汝らに与うる誠命と彼の言とを皆心にとめてよく聞……(く)べきなり。」(教義と聖約21:4)

また、予言者からの勧告を受け入れることについて、教義と聖約108:1の中で次のように述べておられます。

「主誠にかくの如く汝に告ぐ。わが僕ライマンよ、汝の罪赦されたり。そは汝わが声に従い、今朝この地まで来りてわが命じたる人よりその助言を聞かんとすればなり。」

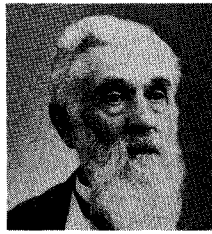
ブリガム・ヤングは、「私はいまだかつて聖典と呼ばれないような教えを説いたことも、人の子らに宣傳伝えたこともない」(*Journal of Discourses*「説教集」13:95)と語っています。

7. 予言者は必ずしも私たちが知りたいことを告げるのではなく、知る必要のあることを告げる。

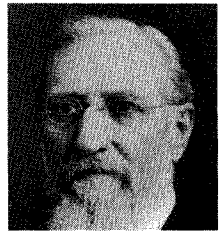
「汝はわれわれの聞くに堪えないほど残酷なことを言った」と不平をもらす兄たちに、ニーファイはこのように述べています。「罪のある者は真理が胸の底まで刺しつらぬくために真理を残酷だと思うのである。」(Iニーファイ16:1, 2)

ハロルド・B・リー大管長は次のように語っています。

「教会幹部からのメッセージを快く思えないこともあるかもしれない。あなたの政治上の見解や社会観と相容れないものもあるだろう。また、あなたの社会生活を多少なりとも犠牲にしなければならないようなメ



ロレンゾ・スノー



ジョセフ・F・スミス

ッセージかもしれない。……私たちの安全は、主が主の教会を管理するよう召された人に従うかどうかにかかっている。……私たちは大管長に目を向け……ようではないか。」(「大会報告1970—72」pp.148—49)

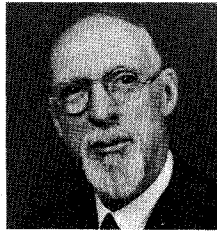
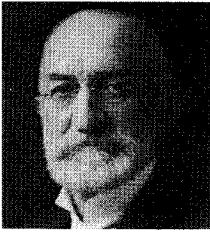
しかし、実際に世の人々を動揺させるのは、生ける予言者です。キンボール大管長は次のように述べています。「この教会においてさえ、過去の予言者の碑を飾り、心の中で生ける予言者に石を投げつけている者が多くいる。」(*Instructor*「インストラクター」95:257)

なぜでしょうか。その理由は、生ける予言者が私たちが今知る必要のあることを伝えるからです。そして、世の人々は過去の予言者や自分たちの問題に心を砕いてくれる予言者を好むからです。政治学の権威者と呼ばれる人は、政治を安定させてくれる予言者を求め、進化論の権威者と呼ばれる人は、進化論を支持してくれる予言者を待ち望みます。このような例はいくらでも挙げることができます。

現代の予言者の言葉が、私たちにあって知る必要はあるが進んで聞きたいとは思えない場合、その言葉に対してどのように反応するかによって、私たちの忠実さが試されます。

マリオン・G・ロムニー副管長は次のように述べています。

「すでにこの世を去った予言者を信じる



ヒーバー・J・グラント ジョージ・アルバート・スミス

のはやさしいことであり、現代の生きた予言者を信じることは偉大なことである。例をとって話そう。

グラント大管長が生きておられた頃のある日、総大会が終わって、私は事務所にいた。その時ある年配の人が私をたずねてきた。彼はその大会で私を含めた幹部の話にひどくがっかりしていた。彼は外国から来たということだけにとどめておこう。彼の話聞いた後、私はこう言った。『あなたはなぜアメリカへ来たのですか。』

『神の予言者から来るように言われたからです。』

『その予言者はどなたですか。』私は続いて言った。

『ウィルフォード・ウッドラフです。』

『ウィルフォード・ウッドラフは神の予言者だったと信じていますか。』

『はい。』

『あなたは彼の後継者ロレンゾ・スノー大管長が神の予言者だったことを信じていますか。』

『はい、信じています。』

『ジョセフ・F・スミス大管長が神の予言者だったことを信じていますか。』

『はい。』

そして大切な質問をした。『あなたはヒーバー・J・グラントが神の予言者であることを信じていますか。』

彼はこう答えた。『彼は老人に対して援助

を与えるというようなことを口にしない方がいいと思います。』

彼は背教への道歩んでいると申し上げる。彼は永遠の生命への機会を取り上げられようとしている。現代の神の予言者に従うことのできない人はすべてそうである。』
(Conference Report「大会報告」1953年4月, p.125)

8. 予言者は人の理論に制約されない。

皆さんは神の啓示と人の理論のどちらかを、すなわち予言者と教授のどちらかを選択しなければならぬ状況に置かれる時があるでしょう。予言者ジョセフ・スミスは次のように述べています。

「神が要求されることは、いかなるものであっても正しい。そして中には、なぜ正しいかがずっと後にならなければわからないものもある。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.256)

盲人を治すために地につばきをし、そのつばきでどろを作り、そのどろを盲人の目に塗って、濁った池で洗いなさいと告げたら、眼科医はそれが道理に適っていると思うのでしょうか。しかし、これはまさにイエスがひとりの盲人に対して取られた方法であり、その結果盲人は癒されました。(ヨハネ9：6—7参照) またらい病を治すために、ある川へ行って7たび身を洗いなさいと患者に告げたら、理に適っていると思えるのでしょうか。しかし、これはまさに予言者エリシャがらい病を患っている人に告げた言葉であり、その人は癒されたのです。(列王下5参照)

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道はあなたがたの道とは異なっ

ていると主は言われる。」(イザヤ55：8，9)

9. 予言者は物心両面にわたりいかなる物事についても啓示を受けることができる。ブリガム・ヤングは次のように述べている。

「カートランドの指導者の中には、この世的な事柄に口をはさんで、予言者ジョセフに強く反対する者がいた。……

末日聖徒の一般大会で私はこのように尋ねた。『イスラエルの長老の皆さん、……神の王国において霊的な事柄と物質的な事柄との間に、私にも理解できるような境界線を引ける人が、皆さんの中にいるだろうか。』だれひとりとして、できる者はいなかった。……

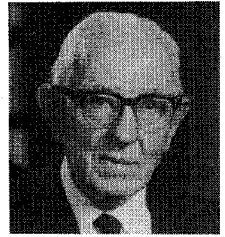
この地上に住むいかなる人であっても、予言者から物質的または霊的な事柄について指示を受ける際に、神の予言者の歩むべき道を指摘したり、予言者の義務や立ち入るべき範囲を提示したりするならば、私はその人に真向から反対する。物質的および霊的な事柄は互いに結び付いて不可分であり、これは永遠に続くであろう。」(*Journal of Discourses* 「説教集」 10：363—64)

10. 予言者は一般社会の問題について勧告を与えることができる。

義しい人々は、政治の面で自分たちを導いてくれる最高の人を求めています。モルモン経の中のアルマは、教会と政府の頭でした。ジョセフ・スミスはノーヴーの市長であり、ブリガム・ヤングはユタの知事でした。イザヤは政治に深くかかわって、政治上の問題に勧告を与えていました。イザヤの言葉について、主御自身が次のように



デビッド・O・マッケイ



ジョセフ・
フィールディング・スミス

述べておられます。「イザヤの言葉は、まことに偉大なる価値あり。」(Ⅲニーファイ23：1)

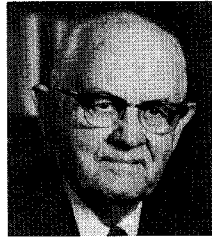
11. 予言者に従う上で最大の障害を持つ人とは、教養を誇る人と富を誇る人である。

教養を誇る人は、予言者が自分と同じ意見を述べた時にだけ靈感を受けていると見なし、それ以外の時は人間として個人的な見解を述べているにすぎないと考えるでしょう。また富を誇る人は、身分の低い予言者の勧告など受け入れる必要はないと感じるかもしれません。

モルモン経には次のように記されています。「おお悪魔の狡猾な謀ごとよ。おお人間の虚栄と意志の弱さと愚かさよ。人間は学問があると自分は賢いと思って神の訓戒に耳をかさず、自分独りで解ると思って神の訓戒をうち捨てるから、その知恵は愚かであって何の益にもならず、かれらはずいに亡びるのである。

しかし、人間がもしも神の訓戒に従うならば、学問のあるのも善いことである。……

そして、門を叩く者には誰にでもこれを開きたもうのであるが、自分の学問があるからとて誇る学者、自分の知恵があるからとて誇る智者、自分の宝があるとて誇る富者、これらはみな主なる神がいやしみたもう者たちであるから、もしも彼らがその誇る所をうち捨て、神の前に自分らを愚かな者



ハロルド・B・リー スペンサー・W・キンボール

だと思って低くへりくだるのでなければ、神はかれらに門をお開けにならない。」

(II ニーファイ 9 : 28, 29, 42)

12. 予言者は俗世間の人々から必ずしも好評を博することはない。

予言者が真理を明らかにすると、人々はふたつに分かれます。心の正直な人はその言葉に耳を傾け、邪悪な人は予言者を無視するか、予言者に戦いを挑んできます。予言者が世の中の罪悪を指摘すると、世の人人は自分の罪を悔い改めるよりも、予言者の口を塞ぐか、あるいは予言者など存在しないかのように振る舞おうとします。人気は決して真理の目安にはならないのです。多くの予言者が殺され、追放されてきました。主の再臨が近づくにつれて世の人々はますます邪悪になり、予言者は彼らから受け入れられなくなるでしょう。

13. 予言者とその補佐は、教会における最高の定員会である大管長会を構成する。

主は教義と聖約の中で大管長会について「教会に於ける最高の評議会」(107 : 80)と言及し、「われを受け入る者は、わが遣わしたる者すなわち……大管長会を受け入るなり」(112 : 20)と述べておられます。

14. 生ける予言者と大管長会に従う人は祝福を受け、拒む人は苦難を受ける。

ハロルド・B・リー大管長は、教会歴史から次のような出来事について語っています。「これは教会初期の時代に、特にオハイオ州カートランドで起こった出来事であると思う。そこでは教会は管理評議会に名を連らねる数人の指導者たちが、秘密の会合を開いて、予言者ジョセフを指導者の地位から追放するという陰謀を企てようとしていた。ところが彼らは、ブリガム・ヤングをその会に招待するという失策を犯した。ブリガム・ヤングは会合の目的を聞くと、そこにいた人々を叱責し、その中で次のように言った。『あなた方には神の予言者の使命を打ち砕くことはできない。できるのは、神の予言者とあなた方とを結ぶ糸を断ち切って、自らを地獄に沈めることだ。』」(Conference Report「大会報告」1963年4月, p. 81)

教会の総大会において、N・エルドン・タナー副管長は次のように述べています。

「予言者は金曜日の朝、私たちの責任が何であるかを、はっきり話されました。……その後、ある人が私にこう言いました。『私たちの州には、自分が正しいと思う限り予言者の言うことに全面的に従うが、自分が正しいと思わないことであったり、訴える力を感じなかったりすると従わない人がいます。こうなるとこの人々は、自分が予言者になっているのです。主が何を求め、何を求めておられないかを自分で決めているのです。』

私たちがどの誓約を守り、どの戒めに従おうかを選び始めると、それは本当に危険な兆候です。守らなくてもよいものもあると考える時、私たちは主の律法を引きずりおろし、自分が自分の予言者になっているのです。神の予言者に従わない時、私たち

は自分で偽りの予言者になっているのですから、私たちは誤りに陥っていくに違いありません。これは確かなことです。私たちは決して、守る戒めと、守らない戒めを区別してはなりません。」(「大会報告」1966年10月, p. 98)

予言者ジョセフ・スミスは、「大管長会に目を向けて、指示を仰ぎなさい」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith* 「予言者ジョセフ・スミスの教え」, p.161)と勧告しています。しかし、アーモン・バビットはそれに従いませんでした。主は教義と聖約の第124章84節で次のように述べておられます。

「而してわが僕アーモン・バビットに就きては、わが喜ばざる多くのことあり。見よ、彼はわが命じたる助言すなわちわが教会の大管長会の命じたる助言を用いずして、己が助言を是認せんことを熱望す。」

最後に、これまでお話してきた「予言者に従う14の原則」、つまり私たちの救いがかかっている大切な鍵をまとめてみましょう。

1. 予言者はすべての事柄について主と語れる唯一の人である。
2. 生ける予言者は、私たちににとって標準聖典よりも重要である。
3. 生ける予言者は、私たちににとって過去の予言者よりも重要である。
4. 予言者は教会員を背教へと導くことはない。
5. 予言者はいかなる主題について語る時も、またいかなる行動を起こす時も、特別にこの世的な訓練や教育を受ける必要はない。
6. 予言者は私たちに聖文を与える時に、必ずしも「主かくのごとく言う」と宣

言する必要はない。

7. 予言者は必ずしも私たちが知りたいと思うことを告げるのではない。知る必要のあることを告げるのである。
8. 予言者は人の理論に制約されない。
9. 予言者は物心両面にわたりいかなる物事についても啓示を受けることができる。
10. 予言者は一般社会の問題について勧告を与えることができる。
11. 予言者に従う上で最大の障害を持つ人とは、教養を誇る人と富を誇る人である。
12. 予言者は俗世間の人々から必ずしも好評を博することはない。
13. 予言者とその補佐は、教会における最高の定員会である大管長会を構成する。
14. 生ける予言者と大管長会に従う人は祝福を受け、拒む人は苦難を受ける。

以上の14原則が真実であることを証します。主をどの程度支持しているか知りたいたいと思ったら、次のように自問してみましょう。この世における主の指揮者をどの程度支持しているだろうか、主が油注がれた生ける予言者、教会の大管長の言葉や、大管長会の定員会とどの程度調和した生活をしているだろうか。

神の祝福がすべての人に注がれて、迫り来る危険と苦難に満ちた時代の中で予言者と大管長会に目を向けることができるように、心から祈っています。

(1980年2月26日、ブリガム・ヤング大学における説教)



お父さん帰ってきて

ディーン・P・スミス

ある土曜日の午後のことです。父と兄が材木を集めに農場を出て行きました。父は、妹のエレインと僕に帰ってくるまで農場の番をしているように言い、幾つか仕事を言いつけて出かけて行きました。

僕が言いつかった仕事は、まず下の牧場へ行って乳牛を集め納屋に入れることでした。父が帰ってきたらすぐ、乳がしぼれるようにしておくためです。

僕は、自分の馬に乗って牛を追うつもりでいました。しかし、馬は納屋から出て、下の牧場のところに行っていました。ほか馬と言え、黒くて大きいのが一頭いましたが、父からそれには絶対に乗らないように言われていました。けれど、僕は、面倒臭いのと牧場まで歩いて行って戻って

くるのがおっくうになって、「きょうだけ」そう言いさせてその馬に乗ることにしました。僕は馬の背中に鞍を置いて自分でまたがると、次に妹を後ろへ乗せようとしてしました。しかし、主が妹をみ守って下さったので、馬がじっとしていないために妹を乗せることができませんでした。

僕は妹に、戻ってきたら自分の馬に乗せてやると約束して、牛を集めに行きました。帰る途中のことです。干し草を縛る縄に足をからませた馬が、びっくりしてそれを取ろうとしてそのはずみで僕は振り落とされてしまいました。そして、そのまま気を失ってしまいました。

気がついてみると、僕は兄のベッドに腰をおろしていました。僕は、牧場を通り抜け、さくを越えて、自分で家に戻ってきたのでした。頭の横の傷口から血が流れていました。おまけに、左手は後ろに曲がっています。小さな擦り傷や切り傷がそこら中にありました。

僕は次第に、何が起こったのかわかるようになりました。そこへエレインが泣きながら部屋に入ってきました。どこにいたのか尋ねると、妹はこう言いました。「天のお父様に、お父さんが早く帰ってきて、お兄さんをお医者さんに連れて行くようにしてお祈りしていたの。」

父が話してくれたのですが、ちょうどその頃、父は木を切りながら家に何かあったことを感じていたのだそうです。父は手を止め、兄にこう言いました。「胸さわぎがする、家に帰ろう。」父は、僕が意識を取り戻すとまもなく家に着きました。

僕は、それからずっと妹に感謝しています。妹の信頼と謙遜な信仰に感謝しています。



ナイジェリアの教会員

アンソニー・ウゾディマ・オビンナ

西アフリカで最初の黒人の教会員、アンソニー・オビンナ兄弟と、妻のフィデリア・ネジョーキ・オビンナ姉妹の話を、オビンナ兄弟の書簡から紹介する。オビンナ兄弟は生粋のアフリカ住民で構成する初めての支部の初代支部長、姉妹は扶助協会会長となった。

ウゾディマというのは両親がつけてくれた名前です。「最善の道」とか「良い道、実りある道に行く時はだれもリーダーを認めないのに、悪路、難路に行く時はリーダーに全部の責めが負わされる」という意味です。

私は1928年に、ナイジェリアのオウェリのイモ州地方自治区、アボ・ムバイセのウ

ムエレム・エニヨググで生まれました。祖父は知りませんが、どんな一生だったか、どんな生活をしたかは話で聞いています。父の名前はオビンナ・ウゴチュクウといいます。オビンナというのは「父にとってのししい者」という意味です。ウゴチュクウというのは「神よりの賜物」というイボ族の言葉です。私の両親も祖父母も偶像崇拜

をしていました。毎年、山羊、羊、めんどり、鳥などの生き物や、作物などを捧げるから自分たちや家族の生活を守って下さいと言って神々を拝んでいました。私の父には3人の妻がいました。養えさえすれば何人妻を持ってもいいというのがイボ族のならわしだったからです。

父は穏やかな人で、真理を愛し、地域のいろいろな裁定をし、悪事やうそをきらった有力者でした。農民でしたが商売もして、何事につけ腰の低い人でした。子供が24人いましたが、幼なうちに死んだ子が大勢います。現在達者なのは男11人、女4人で、孫は沢山います。

初めの頃、私たち部族は西洋の教育をきらい、子供を学校へやったり教会に連れて行ったりするよう勧める人々を憎みました。いつも白人を怖がって、白人の前に出たり近づいたりするのをいやがりました。子供は家に引き止めておいて、細仕事をさせるのが一番だと思っていたのです。家の中の役立たずとみなされた者だけが学校や教会に行くのを許されたわけです。女子は働き手ですから、学校へおいそれとは行けませんでした。

私は実に幸運だったと思います。神様が私にどれだけのことを用意して下さったか、その時はほとんど考えもしませんでした。私は5番目の子でした。イギリス人がやって来て父に話をし、父の言うことが彼に通じなかったため、父が腹を決めて、1937年に私を学校へ入れたのです。ところが1944年に普通科6年を修了すると、第2

次世界大戦が始まり、私たちも苦しくなりました。職探しが難しく、そのため私は北ナイジェリアのジョスへ移り、教師を一生の仕事に選びました。17歳でした。カトリックの司祭に勧められて、オックスフォードにあるウルジーホールの通信教育を受けましたが、英語、地理、経済、歴史、宗教、衛生学などの学科がたいへんおもしろく、よく勉強しました。

1950年には愛する妻のフィデア・ネジューキと結婚しました。妻はアボ・ムバイセ地方自治区のイベク・オクワトで1930年に生まれ、父の名はヌコク・ウゴナボ、母はエケオマといえます。どちらも妻が小さい時に亡くなり、そのために妻は教育が受けられませんでした。孤児になった妻は弟妹を養っていくためにささやかな商売を始め、家から何キロも離れた市場をまわって暮らしを支えました。妻はカトリックに改宗していて、いろいろな組織のリーダーもしました。妻が言うには、神への強い信仰を持っていたのでどんなことでも神が導いて下さり、悪魔の誘惑から身を守ることができたそうです。

結婚したての頃は、失敗続きであれこれ問題が起きました。私たちは神のみ守りと先生方の忠告にすべての望みを託しました。でもいろいろと難しいことがあったために、私は妻を店主にして商売を始めました。妻は正直者でまわりの人たちから尊敬され、ほめられて、立派な主婦だ、女性の鑑かがみだと言われました。さまざまな生活をしている人たちが妻の助けを借りにやって来る時、

良い助言をするのが妻の仕事のようです。しかし妻は家族のことを一番大事に思っています。

1952年になって私は教える仕事を始め、また勉強に打ち込みました。妻は私が4年間教員養成大学へ通うのを辛抱して待ってくれました。私には教えるという素晴らしい仕事がありました。でも、この教師というささやかな働き以外に、神様が私になすべき仕事を用意しておられたことは知りませんでした。

1965年の11月です。私は夢で、右手にステッキを持った背の高い人の訪問を受けました。その人はジョン・パニヤンの「天路歷程」にあるクリスチャンとクリスチニアの話を読んだことがあるかと、私に聞きました。私がもう忘れてしまったと答えると、また読むように言いました。それから2、3カ月経った後、同じ人がまた夢に現われて、私を美しい建物に連れて行き、中を全部見せてくれました。その人の夢は3回も見ました。

ナイジェリアの内紛中、外出できずにいた間に、私は「リーダーズ・ダイジェスト」の1958年9月号を引っ張り出してめくってみました。すると開いた34ページに、夢で見せられたのとそっくりの美しい建物の写真が載っていました。私にはすぐそれとわかりました。見出しには「モルモン教徒の行進」とありました。それまで、モルモンという言葉は聞いたことがありませんでしたが、夢に見た建物の写真だったので、記事を読みました。それは末日聖徒イエス・

キリスト教会についての話でした。

その話を読んで以来、気の休まることなく、新しい発見に心が向くばかりでした。すぐ兄たちの所へ飛んで行くと、私の話を聞いてみんな驚きました。

しかし、当時はナイジェリア全土が封鎖状態にあって、教会本部へ手紙を書くことができませんでした。1971年になって封鎖が解かれると、私は指示を求める手紙を書きました。それに対して、パンフレットとモルモン経が送られてきて、その中に福音の回復についての「ジョセフ・スミスの証」もありました。そして当時国際伝道部にいたラマー・S・ウィリアムズ兄弟が、ナイジェリアに教会を組織する権限が今はないということを知らせて下さいました。私はすっかり落胆しましたが、聖霊に動かされて手紙を書き続けました。何度も教会の宣教師たちが教会のことを話し合っている夢を見ました。

私は迫害や悪口やいろいろな侮辱を受けました。そして様々な形でしいたげられましたが、耳をふさいで我慢しました。自分は真理を見つけたのだから、人の脅しには絶対に屈しないと決意したのです。私はそのようにして、自分たちに扉を開いて下さるように神に願い続けました。

W・グラント・バンガター長老が同じような手紙を下さいました。教会はまだナイジェリアに組織できないが、指導者たちは組織したいと望んでいるということでした。

私は1976年10月9日に、バンガター長

老宛ての手紙を書きました。

「9月24日付のお手紙をいただき、ありがとうございました。おっしゃることはわかりました。でもあきらめません。私たちは真理とわかった信仰をあくまで追求してゆくつもりです。……

私たちは、主イエス・キリストの力によっていつか教会がもっと積極的に行動できるようになるはずだと樂觀しています。今、信仰が試されているのです。この地にいる大勢の天父の子供たちに真理が広められるように、私たちにできることは何でもするつもりです。」

ウィリアムズ兄弟が日曜日のプログラムを教して下さいました。私たちはいつも祈り続け、ついに1978年11月21日、教会は正式に黒人に神権とその儀式を行なう権能を与えることになったのです。

「上述の日、19名がレンデル・N・メイビー、エドウィン・Q・キャンノン・ジュニア、A・ブルース・クヌードセンの長老からバプテスマを受けた。アボ支部が組織され、アンソニー・オピンナが支部長、兄のフランシス及びレイモンドが副支部長、妻のフィデリアが扶助協会会長に召された。オピンナ支部長は一族で役職を独占することを懸念したが、メイビー長老はふさわしい人物を選んだと返答。新支部長会はすぐさま喜びの手紙を大管長会に寄せた。

「親愛なる兄弟の皆様、

ナイジェリア当地の末日聖徒イエス・キリスト教会の全会員は、福音を完全な姿で我が民に伝える扉が開かれたことを喜び、

皆様と世界中の末日聖徒にお礼申し上げます。

皆様が神殿上階の部屋で、私たちを群れに加えるよう何時間もかけ主に祈って下さいましたことを感謝申し上げます。皆様のお祈り、私共の祈りを天父が聞きとけて下さり、啓示によって久しく待望のあの日を承認され、私共に聖なる神権を許され、神聖な権能を行使し、神殿のあらゆる祝福……を享受する権利を得させたもうたことを天父に感謝致しております。

当地において教会が発展し、聖徒たちの一大中心地となり、世界各国同様ナイジェリア国民の進歩発展に充分寄与することは疑うべくもありません。』

私に慎ましく誠実な妻と、地上のまことの教会の会員である7人の立派な子供たちがいることは祝福です。子供たちは皆教育を受けました。長女と長男は資格のある教員です。ボナドベンチャーは中等学校5年を修了し、アンジェラは中等学校4年生、ステラ・エゴは中等学校2年生、アナスタシアは中等学校1年生です。末の息子は1980年9月に大学へ入りました。

我が家で一番重要な話題、そして一番の関心事は「私たちの教会」のことです。キリストが御自身のまことの教会を守っていらっしゃいますから、毎日教員が増えています。私は、将来この教会の会員が海辺の砂のように多くなることを証します。神は偉大な御方で、奇跡を行なわれます。人間の力はこの世における神のみ業を阻むことができないのです。

「どうぞ子供の先生を 祝福して下さい」

グラティス・C・ファーマー

私は初日のプライマリーからショックを受けて帰宅しました。せめてもの救いは、他の教師の顔にも当惑した表情がうかがえたことでした。休み明けのせいで生徒はみんな落ち着きがなかったのでしょう。でも、その次の週はすっかり絶望して家に帰りました。生徒は手にあまるばかりでした。手作りの視覚教材は乱暴な扱いにひとたまりもなく、男の子は椅子の上に乗って窓によじ登ろうとしますし、女の子は仲間同士や男の子相手に口げんかです。

もうやめてしまいたいと初めは思いました。このような8歳児たちと11カ月もだれがおつきあいできるでしょう。でもプライドがあってやめることはできませんでした。大人になってから日曜学校、扶助協会、M I A、セミナーと教え続け、学校の英語教師も経験した私は、ざ折という文字を知りませんでした。この責任をいただいた時、監督は「プライマリーのこの責任はあなたにとって進歩成長の新しい道になるでしょう」とおっしゃいましたが、それどころではありません。無能をまざまざと見せつけられた初めての召しでした。

その夜、私はほとんど眠ることができず、



「監督は『プライマリーのこの責任はあなたにとって進歩成長の新しい道になるでしょう』とおっしゃいましたが、……無能をまざまざと見せつけられた初めての召しでした。」

翌日は子供たちに当たり散らしました。とうとう夫に悩みを打ち明けると、彼は話をよく聞いて、具体的な解決策を提案してくれました。父母に問題を知らせ、毎週子供に報告カードを持たせることでした。私は初めあまり乗り気がしませんでした。またもプライドが邪魔したのです。たとえクラスがうるさくても、自分の力不足を他人に知らせるよりはましだと思いました。でも私はわらにもすがりたい気持ちでした。それで夫の勧めに従って「生徒の態度」カードを謄写板で刷ってお母さん方に個別に如才なく話をしたのですが、それだけでは不十分なことがわかりました。

報告方式の目新しさは1カ月もすると色あせてしまいました。しかし「静かにしたかどうか」を調べたその間、私はレッスンをし、自分の証を述べ、クラスパーティーを計画し、未亡人のための奉仕計画をまとめることができました。そして以前はうるさかったひとりの男の子が、「うるさくするのは、やめてよ。静かにしたカードももらえると、ママからごほうびもらえるんだから」と隣の子供に言うのです。

何週間か過ぎて、静かになった子もそう

でない子もいましたが、初めの半月のようなひどい状態はなくなりました。ゲーム、競争、スライド、指人形、クラス外の訪問、自分の家へ手紙を書くなどのいろいろ変わった活動が役に立ったのだと思います。半月位経つと子供たちは私の言うことを聞くようになり、もっとよいことには、私に彼らを愛する気持ちが湧いてきました。

それから、もう一度改めて考えさせられることがありました。私はプライマリーの責任に毎週かなりの時間を使っていましたが、それでも3人の学齢前の子供たちの世話の方がずっと手間がかかります。それも苦勞であり、喜びであり、大仕事でした。恥ずかしがりやなのに快活で気性の激しい4歳半のサラが、保育園によく似たじんだ時、私たちはほっとしました。サラに人一倍の愛情を注いで慣れるように心を配って下さった先生に、どれほど感謝したことでしょう。我が家のあばれん坊、2歳半のクラークも日曜学校のクラスに入って（統合プログラムが実施される以前のことでした）、片言を話し始めたレイチェルを手元に置くだけでいい時が早く来ないものかと待ち遠しかったものです。

ある日曜日、神権会から帰って来た夫から新しく我が家を担当して下さるホームティーチャーの熱心な様子を聞き、うれしく思いました。ボウエン兄弟は早速、いつの訪問がよいか、家族に必要なことは何か、子供たちにどんなレッスンをしたらよいかなどと夫に聞かれたそうです。さすが監督をなさったことのある方だと思いました。ホームティーチングがどういうものか、よく御存じなのです。

私はワード部に移って来られたばかりのボウエン兄弟のお名前を子供たちに覚えさ

せ、私たちが良い教会員になれるように教えたり助けたりして下さる特別なお友だちなよと話して聞かせました。

ところがその翌週の訪問の日、子供たちが申し合わせたようにウイルス性の病気にかかってしまったのです。サラは元気でしたが、とても疲れて不機嫌でした。彼女は夕食の後すぐソファで眠ってしまい、玄関のベルが鳴ると、まだ目が覚めきれないまま弟と一緒に走って行きましたが、まったくの初対面のボウエン兄弟と同僚を見るなり泣いて引込んでしまいました。夫があわててなだめに行ったため、私とふたりの子供で、びっくりしているお客様にごあいさつすることになりました。

「おいでの時はあの子、眠っていたんですの。」私はまごまごしながら言い訳しました。「具合があまり良くないものですから。こんなこと、めったにありませんのに。」その夜、新しいホームティーチャーは気持ちよくわかって下さいましたが、私は来訪を楽しみに待っていただけに、すっかり気落ちしてしまいました。

次の訪問について、私は前の日曜日になるまでサラには何も言いませんでした。日曜日に、開会のお祈りをしたホームティーチャーがまた私たちの家へいらっしやるとだけ話しました。その木曜日に来て、7時きっかりにドアのベルが鳴りました。今度はクラークとレイチェルが玄関へ駆けて行き、サラは台所でぐずぐずしていました。

私は「ジム、応対、お願い。私、サラに話してみるわ」と夫に小声で言いました。

「ねえ、サラ、ボウエン兄弟とバットにきょう保育園で作ったたこを見せてあげない？」そう言って掲示板に飾ってあった色鮮やかな三角だこを渡すと、サラはたこを

下に置いて言いました。

「ううん、見せたくない。ここにいる。いいもん。」

「ねえ、一緒に行きましょ。ママのおひげにすわってればいいわ。」

「いや、行かない。」

「いらっしゃい。」私が穏やかながらきっぱりした調子でサラを抱き上げ、居間に連れて行くと、みんなはもう椅子にすわっていました。

「こんばんわ、サラ、元気かな。」ボウエン兄弟が優しい笑顔であいさつをして、手を伸ばしました。サラは目をそらし、私の肩に顔を埋めました。「きょうはサラとクラークのために特別なレッスンをするよ。」ボウエン兄弟は床にすわり込み、ニコニコして話を続けます。「ここにおいで。これ何の写真だろう。」

サラは興味を引かれたのでしょうか。ボウエン兄弟が何枚もの中から取り出した敬虔に腰かけている子供たちの大きな写真をのぞき見ました。私はひざにサラを抱いたまま、すばやく床にすわりました。

「おともだち。」クラークが答えました。

「その通り。」ボウエン兄弟が楽しそうに言います。「それじゃ、何をしているんだろう。」

「みんな、さかだちしてる。」サラがいたずらっぽく答えました。

「手をくんでいる。」クラークが腕組みをして答えました。

「そうだよ。」ボウエン兄弟がほめました。

「どうして静かにしているのかな。ここはだれのおうちだと思う。」

「サンタクロースのおうち。」サラが言いました。私はサラの意地の悪い答えに赤面しました。わざと反対の答えを言うプライ

マリーの生徒たちそっくりだわと思いました。

敬虔さと家族の祈りについてのレッスンの終わりに、ボウエン兄弟はリボンで結んだ棒あめをポケットから取り出しました。

「はい、サラ、みんなと一緒に聞いてくれたごほうびだよ。」

サラには欲しそうな表情がうかがわれましたが、でも首を横に振りました。そして「クラークにあげて」と、マゾヒスティックな反抗をして言いました。

「ありがとう。」クラークが手を伸ばしてお礼を言いました。

「クラーク君、利発ですねえ。」ボウエン兄弟がおっしゃいました。

「ええ、どの子でもすわ。」私はかばうような返事をしました。ホームティーチャーが帰り、ジムがあめを分けに子供たちを台所へ連れて行った後、閉まった玄関のドアを前に、私の目には涙がにじんできました。「どうか神様、ボウエン兄弟がサラのことを見放さないで下さいますように。」心で祈りました。「サラの態度が本当にいけなかったことはわかっています。でも、サラも良い子になれるのです。やさしくなれるのです。どうか、ボウエン兄弟が辛抱し、愛を注いで下さいますように助けて下さい。」

その時ふっと、最初の1カ月間手につけられないほど悪かったプライマリーの6人の子供の顔が浮かんできました。「そうだわ」私は自分の責任に突然目が開けた思いでした。「あの子たちのお母さんがあの9月にこうして私と同じ祈りを捧げて下さっていたのだから。」あきらめまい、子供と一緒に頑張っていくという私の決意は、その時から今までぐらつくことはありません。

逆境に遭うとき

スティーブ・ダン・ハンソン

今から百年以上も昔、父の曾祖父母がスウェーデンで教会に加入しましたが、彼らは長い航海を経てアメリカへ渡り、ニューヨークからオマハまでは汽車、それからは幌馬車でソルトレーク・シティにやってきました。その途中、ニューヨークで汽車に乗り込みましたが、それは食用豚を市場に運ぶのに使われた家畜運搬用の貨車でした。中は汚く、豚じらみがいっぱいいました。

おばあさんは不便をしのびましたが、おじいさんは屈辱に我慢がならず、「豚と同格とはなんだ」と不平を鳴らしました。しかし、ともかくも旅を続けました。

「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。」
(IIコリント 4：17)



その時おばあさんは妊娠中だったため、オマハに着いてこれから苦労も本番だという段になると、おじいさんは彼女の健康と生まれる赤ん坊の具合が心配になりました。しかし、幌馬車隊の隊長が、産婆の経験豊かな人たちがいるから何も心配はいらないと保証してくれて、旅の途についたのです。

そして、ネブラスカの平原で元気な赤ん坊が誕生しました。ところがそれから数日後、3歳の息子がコレラにかかりました。おじいさんは真夜中に隣の幌馬車へろうそくを借りに行きましたが、分けてあげられないという返事でした。おじいさんはそれに怒り、ぐったりして熱い子供の体を暗闇の中で抱きしめながら、夜通し起きていました。息子はその夜、死にました。

翌朝、隊長はインディアンが出没することもあるし時間の余裕もないのでと言い訳して葬式を簡単にすませてから、墓穴はできるだけ浅く掘って埋葬しようと言いました。おじいさんはそれに反対し、自分は後に残ってけものに墓をあばかれないように深い穴を掘るのだと言い張りしました。

おじいさんはその日、昼も夜も働き続けて丈夫な木の棺を作り、堅い土を1メートル半も掘りました。そして、泣きながら息子を埋め、その後夜を徹して歩いて、幌馬車隊に追いついたのです。彼の心は悲しさに打ちひしがれていました。怒ってもいいです。遅れるからといって息子にきちんとした葬式をしてくれなかった隊長と、そして息子を「死なせた」神様に。自分の幌馬車にたどり着いて妻にやるせない気持ちをつづけた時、あばあさんは優しくこう

言いました。

「お父さん、よいことを見なくちゃいけませんよ。赤ちゃんも私もこうして元気ですし、ありがたいことに、ほかは家族みんな無事でしょう。このまま旅が終えられれば、感謝以外に言うことはありません。私たちはモルモン教会を唯一のまことの教会と信じて入ったんです。私は今も信じていますよ。この旅で悲しい目や辛い目に遭うのは私たちだけじゃありません。」（ヘイカン・ハンソンの記録より）

しかし、それで苦難は終わりではありませんでした。彼らは生涯、試練と逆境に見舞われました。ところが彼らは、夫婦で同じ経験をしながら、受けとめ方は違っていました。おじいさんは引き下がり、うらみを抱き、つむじを曲げました。そして教会に行くのをやめ、教会指導者の粗捜しをしました。彼は自分からみじめな境遇のとりこになってしまい、キリストの光は生活の中に薄らいでゆきました。

一方、おばあさんの信仰は強くなりました。彼女は新しい問題が起きるたびにますます強くなっていったようです。同情と思いやりと優しさに満ちて、慈悲の天使ながらでした。彼女はまわりの人たちにとって光明であり、家族はおのずと彼女を指導者と仰ぎました。

私はこの話を何度も読み、おじいさんとおばあさんの試練に対する互いに相反する身の処し方についていろいろ考えてみました。また自分でも問題に遭遇して、逆境の果たす役割というものについて理解を深めたいと思い、聖典を勉強しました。初めは幾分混乱しました。聖典のある箇所では、艱難

は罪に対する罰、つまり正しくない行為や愚かな決定の結果として出ていますが、それと逆に、正しい人たちも悪い人と同じような逆境に遭っているのです。

神の律法を破ればいやな結果、つまり逆境が待ち受ける、しかし主は時々弱点を克服するための機会として、私たちに苦勞をさせられるのだということがわかりました。また、いわゆる逆境の中には、日の光榮ならぬ星の光榮につきものの自然のなりゆきにすぎないというものもあることに気がつきました。星の光榮の体で、星の光榮の人人と生活し、星の光榮の知識と知恵しか持たないとあれば、苦勞や問題や不満が出てきて当然です。

そして、もっと大事なことだと思うのですが、星の光榮の世界に住みながら日の光榮の人間になるというのが大きな試みであることも知りました。その手本がイエス・キリストです。イエス・キリストはジョセフ・スミスにこう言っておられます。「わが子よ汝この事を知れ、すなわちこれ皆汝に善からんため、汝に經驗を与えんためのものなり、と。

『人の子』は一切これらのものの下に身を落したり。汝は彼より大いなるか。』(教義と聖約122：7—8)

私は、先祖のおばあさんのように、なぜ逆境が来るのかということあまり考えないで、逆境をどう切り抜けたらよいか、そこから何が学べるか、どうすればその結果もっとキリストに近い人間になれるか、ということの方を考えようと努めています。

言い訳を捜すか真正面から立ち向かうか、あきらめるか忍耐するか、恨みに思うか愛

わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。

(IIコリント4：8—9)

を示すか、自分の取る態度は自分が決めます。その選択で、自分がどれだけ救い主の生き方に近くなれるかがわかるでしょう。

使徒パウロは逆境と昇栄との関係をよく理解していました。パウロはこう言っています。「わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。

なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。』(IIコリント4：8—9, 17)

たとえ自分の受けている患難が「軽くはなく」、「しばらくの間ではない」としても、キリストの模範にならいさえすれば、自分が力を増し、立ち向かっていく決意を深め、また正しい方向に向けて進歩していることに気がつくはずで、困難はどのようなものであれ、私たちに1歩ずつ天父に近づけてくれるのです。私たちにその気持ちがあれば。



ちい とも 小さなお友だちへ



ジエニーはおそろしさに体をふる
わせながら、ふとんにしがみつ
き、スーザンの横にぴったりと身を
寄せていました。ほろ馬車の外では、

草原の上を風があれくるい、馬車の
ほろがバタバタと音をたてています。
ジエニーはあらしで馬車がこわれて
しまわないかと心配でしかたがあり

せうげん 草原のあらし

ダイアン・セイドラップ



ません。お父さんは、グレート・ソルトレーク谷に着くまでは、この馬車が家になると言っていたのですが、もし、ここでこの古い馬車がかわれでもしたら、スーザンや、まだ赤ちゃんのサラを連れて、どうして旅を続けるのだろうかと心配でたまりません。

ほろ馬車の中は寒くて、きゆうくつだけれど、今まで家族をあらしから守ってきてくれました。それにソルトレークで新しい生活を始める時に必要な物を積むだけの広さもあります。お父さんの道具、畑を耕すすきのは、割れないように大切に包んだきれいなさら、はさみや糸、針を入れたさいほうばこ、小麦やトウモロコシ、それに花の種もあります。それでも、大きな家具を入れるようにはなくて、きれいなけしよう台、たんす、スーザンのベッドは売りに出してしまっただけありませんでした。

ジェニーはノーブーのすてきな家のことを思い出しました。本当はず

つとそこにいたかったのですが、暴徒たちに力づくで追い出されてしまったのです。でも、お父さんは、いつかロッキーの山の中で、平和に安心してらせる新しい家を建てる日が来ると言っていました。あらしはやむようすもなく、ゴロゴロという大きな音が草原にひびきわたり、風がくらやみの中でうなり声をあげています。ジェニーはまくらに顔をうずめ、平和で楽しい日が早く来るようにと心の中でつぶやきました。

その時です。「クイグリー姉妹！クイグリー姉妹！」というオレンスレージャー兄弟の声がしました。何か大変なことが起きたようすです。ほろを通して、ランプの光がゆれるのが見えました。「起きていたら急いで来て下さい！子供が産まれそうなんです！」

「わかりました！すぐに行きます！」と返事をするが早いか、お母さんは大急ぎで着がえを始めました。ジェニーはその時、ハッとしました。

お父さんは今夜、牛や馬の見張りを
する当番で留守にしていました。そ
の上、お田さんまでいなくなってし
まったら、まっ暗な馬車に残される
のは、4さいのスーザンと、赤ちゃ
んのサラと、自分だけになってしま
うのです。

ジェニーはやつとの思いで「お田
さん」と小さな声を出しましたが、
お田さんは、「ジェニー、オレンスレ
ージャー姉妹を助けてあげないとい
けないの、サラとスーザンが目を見
ましたら、めんどうを見てあげてね」
と言って着がえを続けるだけです。

「は、はい…」とは言ったものの、
ジェニーはのどがかわいて次の言葉
が出てきません。でも本当は大きな
声でさげびたかったのです。「行っ
ちゃいや！ わたしだってこわいの
よ！」と。

「もし朝まで帰って来なかったら、
食事と出発の用意をしておくのよ。
朝になったら起しようの合図のかね
がなるわ。」お田さんはそう言い残す

と、あつと言う間に、夜の雨の中へ
出て行ってしまいました。

ドーン！というものすごいかみな
りの音に、スーザンが目を覚まし、
「ママ！」と泣き声をあげました。

「スーザン、お田さんいないのよ、
よそのおうちで赤ちゃんが産まれ
るので手伝いに行ったの」とこわがる
妹をなだめようとするのですが、「マ
マがいなくちゃいや！ こわいよー
！」と泣くばかりです。

ジェニーは妹を優しくだきしめて
言いました。「だいじょうぶ、何もこ
わがらなくていいのよ。かみなりが
うるさくて起きちゃったのね。さあ、
またおやすみしなさい。」

ジェニーは自分の気持ちを必死に
おさえて、こわがる妹をだいていた
のですが、こらえきれずになみだが
こぼれてきてしまいました。「こんな
時お父さんがいてくれたら」とジェ
ニーは思いました。お父さんの笑い
声はかみなりよりも大きいし、大風
と力比べをしたってお父さんの方が

強いと信じていました。

「スーザン、お願いだから、静かにして」と言うのですが、とても泣きやみません。そうしている内に、今度は赤ちゃんのサラが目を覚まし、同じように泣き始めました。

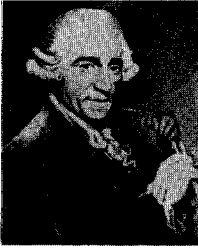
あらしもひどくなる一方です。ほろにたたきつける雨の音はおさまる気配もありません。夜のやみをつんざくようないなずまとかみなりの音に、ジェニーの体は冷たい氷のようにこわばりました。もう妹たちをなだめているどころの話ではありません。「お母さんあんなこと言ったけど、わたしだってこわいのよ！ わたしに何ができるっていうの！」と泣きさけびたい気持ちでした。

その時です、ノーブーをはなれる前にお父さんが言った言葉が心にうかんできました。「生きて行く中には、さびしいことも、おそろしいこともある。それに、ひとりだけではとてもできないと思えることでも、自分の力で何とかしなくちゃならない時

もある。でも、たとえお父さんやお母さんがいなくても、決してひとりぼっちじゃないんだ。困った時には天のお父様が助けて下さる。こわいことがあってもそうだ。ひとりぼっちだって、安心していられるんだ。ジェニーがしなくちゃいけないのは、神様に助けを求めているること、そうすれば神様は聞きとどけて下さるんだ。」

ジェニーは気持ちを落ち着けようとしながら、きちんとひざまずきました。そして、あらしの間、3人を祝福して、神様がいつしよにいてくれるようにと、心からいのりをしました。

いのりを終えてふとんの中に入ると、間もなくふたりの妹は静かに目を閉じて眠ってしまいました。ジェニーはそのそばに横になりながら、暖かで、とてもよい気持ちがわき上がって来るのを感じました。そしてジェニーも、いつの間にか気持ちよさそうなね息をたて始めました。



フイ・ニュー・シツク

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン
(1732~1809)

ハイドンは、今からおよそ250年前、オーストリアに生まれました。ハイドンは、音楽の大すきな、ゆかいな子供でした。ハイドンは、お父さんのひくハープにあわせて、うたを歌うのが好きでした。ときどき、2本の棒を使ってバイオリンを

ひくまねもしました。1本をあごの下にはさみ、もう1本を^{げん}弦にしてひくのです。

しかし、大きくなると、本物のバイオリンをならいました。ハープシコードもならいました。

ハイドンの家はとてもまずしっかっ



たので、ハイドンは学費をえるために教会で歌いました。音楽の勉強のためなら何でもよろこんでしたのです。

ハイドンは一生けんめい勉強して、やがて作曲を始めました。そして、大きなオーケストラのために書いた作品で有名になりました。それらの作品は「交響曲」とよばれています。ハイドンの作曲した交響曲は、ほかの音楽家たちにたいへん気に入られました。それでハイドンは、「楽聖ハイドン」とか「交響曲の父」とよばれました。

ハイドンは、いつもゆかいで、茶目っ気いっぱいの人でした。ある日、ハイドンはオーケストラの練習に出かけると、全員におもちゃの鳥やドラム、トランペット、ガラガラ、笛をくばりました。それから新しい作品をわたしました。みんなはハイドンがふざけているのだと思いながらも、ハイドンの言うとおりにおもちゃの楽器を使って演奏しました。「おもちゃの交響曲」は、このようにしてはじめて演奏されたのです。この曲は、いつでも聞く人の心をたのしくしてくれます。

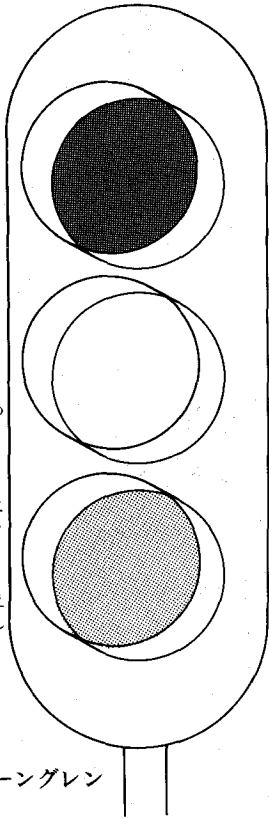
ある日、ひとりの肉屋がハイドンのところにきて、むすめの結婚式のために何か作曲してくれるようにたのみました。ハイドンはよろこんで引きうけました。そして、次の日にはもう曲ができていました。ハイドンはその曲をメヌエットとよびました。メヌエットとは、ゆうがなダンスのための音楽です。

数日たって、ハイドンの家のすぐ前の通りから音楽が聞こえてきました。それは、ハイドンには耳なれたしらべでした。まどの外を見ると、つのを金色にぬり、大きな花の首かざりをした、大きな白い牛が見えます。牛はオーケストラの前に立っていました。オーケストラは、ハイドンが結婚式のために書いた曲を演奏していたのです。

演奏がおわると、あの肉屋がハイドンにお礼を言いにやってきました。肉屋は、しんせつに曲を作ってくれたことを感謝して、ハイドンにその大きな白い牛をおくりました。そのときから、この曲は「牛のメヌエット」として知られるようになりました。



こども交通公園



バーバラ・ホーングレン

フィンランドのヘルシンキという市では、ようちえんに行っているこどもでも、自動車のうんてんめんきょがとれます。といっても大通りを走ることはできません。こども交通公園の中だけです。でも交通規則はおとなとまったく同じです。

このこども交通公園は1958年につ

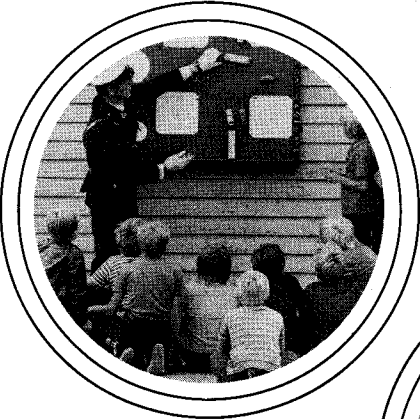
くられました。サッカー場ほどの広さの公園の中には、^{こうさてん}交差点や^{おうだんほ}横断歩道、しんごうきがあります。交通せいのりのおまわりさんもいます。

自動車は、フィンランドの大きな自動車会社と、交通安全をすすめる^{がいしや}団体がきふしてくれました。公園やその中の建物、道路はヘルシンキ市がつくってくれたものです。

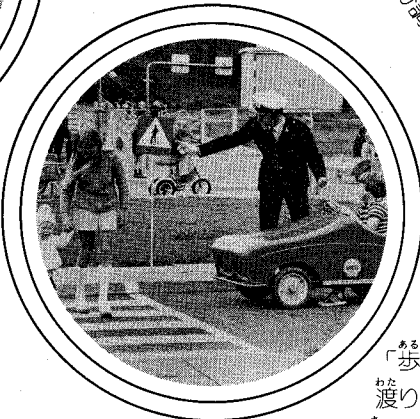
こども交通公園には、一日に700—800人のこどもたちが入れます。公園は、9月から5月までは、朝10時から夕方4時まで開かれ、くんれんクラスも行なわれます。夏休みに入ると、うんてんのれんしゅうをしようと、こどもたちが公園におしかけます。うんてんのしかたを教えてくださいるのは、市のわかいおまわりさん。とくべつなくんれんをうけた人です。こどもたちは、うんてんコースやそのほかいろいろなしつもんに正しく答えられると、ハンドルをにぎらせてもらえるのです。1回につき45分間ほどうんてんします。少なくとも2時間はれんしゅうしないとめんきょはもらえません。

このヘルシンキの自動車くんれん学校はとてにんきがあるので、ほかにもいくつかつくるのが計画されているということです。

交通きそくを守らないと事故が起きることを、おまわりさんが説明しています。

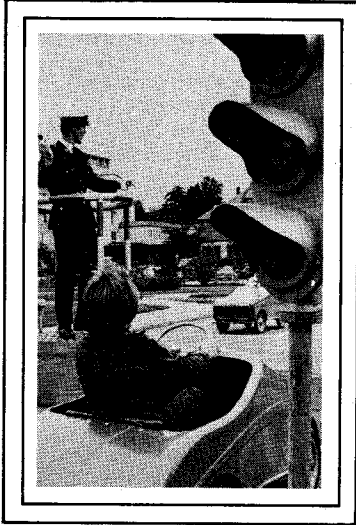


おまわりさんが、運転免許証を持っているかどうか調べています。



「歩いている人が渡り終わるまで待つてあげるんだよ。」

今度は正しい手信号のかくにんです。



信号ではちゃんと止まりましょう。



すべての会員は宣教師です。

「その通りです、私も宣教師になりたいとは思いますが、どうもきまりが悪くて……。」

「むずかしいですね。」

「福音を無理やり人に押し付けたくないな。」

それでは、学校で勉強をしながら、教会や福音の原則をたくさんの友だちに紹介するにはどうすればよいでしょうか。何か簡単な方法があるでしょうか。

福音を分かち合う簡単な方法

ディー・V・ジェイコブス





すべての教会員が宣教師であることは、広く理解されている。……教会員は世の光であり、その光を楯の下に隠すのではなく、すべての人がそれによって導かれるように、山の上におかなければならない。

カリフォルニア州のウォルナットクリークに住むカレン・ジェイコブスとスーザン・ジェイコブスは、伝道が楽しいものであり、また多くの恵みをもたらしてくれることを知りました。事の始まりは、カレンが5年生で、デンマークのコペンハーゲンにあるアメリカンスクールに通っていた頃のことです。カレンはアメリカ史について大がかりなレポートを書くために、テーマを探していました。教師からは脚注や参考文献一覧表、引用カードの作成をはじめ、口頭による発表など、すべてのことを行なうように求められました。一番頭を悩ませたのは、テーマを選ぶことです。そんな時に両親から、モルモンの西部移住についてレポート

を書いてはどうか、と勧められました。

「それがいいわ。」カレンは言いました。

ひとたび書き始めてみると、それはどのようなテーマよりも書き易いものでした。このテーマでしたら両親から助けてもらえますし、自分自身も興味があります。また、初等協会や日曜学校でもこのテーマについて学んできました。

クラスの中でモルモンについて十分な知識を持っている人はほとんどいませんでした。みんなの興味を引くような事柄をたくさん取り入れて発表をしたので、それから数カ月の間活発な討論が展開されました。しかも、成績は「A」をもらいました。

このような伝道方法があることに気づいたカレンとスーザンは、多くの機会をとらえて様々な形でこの方法を活用しました。たとえば、18歳のスーザンは、科学の時間に喫煙の作用について取り上げた時に、みんなの前で子牛の心臓を解剖して関心を集めました。(心臓の動きについての説明や切開方法については、ジョージ・ワシントン大学医学部学生のマイロ・アンドラスに教えてもらい、手術用の手袋やメスも彼から借りました) 小柄な一少女が行なったこの鮮烈な発表に、クラスの生徒は深い印象を受けました。それと同時に生徒たちは、知恵の言葉について力強い説明を聞いたのです。成績は「A」でした。

心臓のレッスンは非常に好評だったので、カレンは麻酔薬の作用に関する研究発表会で子牛の脳を使い、賞を獲得しました。この時も、健康に関する主の律法の一節を分かりやすく説明しました。

カレンはバージニア州アーリントンにあるワシントン・リー高等学校の1年生の時に、歴史の本の中に予言者ジョセフ・スミ

ストと教会の品位を傷つける絵が掲載されているのを見つけて憤慨したことがありました。そこには、ジョセフ・スミスが地中に埋められた宝を求めてあちこち渡り歩く農夫として描かれていたのです。教師にその誤りを指摘すると、初期の教会歴史についてクラスで発表してみてもどうか、という話が返ってきました。カレンは不安を抑えて承知しました。そして最高のレポートを完成しました。ジョセフ・スミスの物語に2, 3の出来事を加えて、真実だけを取り上げました。発表には授業時間をすべて使いましたが、終わるとすぐに教師から、午後のクラスでも同じ発表をするように頼まれました。深いところをついた質問がたくさん出て、さらに詳しく説明してもらうために宣教師を招待することになりました。

800人の卒業生の中で末日聖徒はわずかに3人しかいませんでしたが、3年生の政治のクラスでは、教会をテーマにした研究発表を4回も聞くことができました。協同制度についてのカレンの発表、知恵の言葉の栄養面についてのマイク・ミラーの発表、教会政体についてのマーク・フォーシスの発表、そしてもうひとつは、教会員ではない生徒による発表でした。その生徒はワシントン神殿の一般公開に招待されて感銘を受け、末日聖徒の友人の手を借りて、神殿を建てる民としてのモルモンについて発表したのです。

カレンやスーザンをはじめ、このような伝道方法を試みた生徒たちは、多くの人々に影響を与えることができたことに大満足でした。事実、モルモンであることを学校中の人に知られるようになりました。ワシントンD. C.の郊外に位置するこの学校では、外交官や国会議員、軍人、国家公務

員などの息子や娘が生徒の大半を占めていました。にもかかわらず、麻薬の濫用、乱暴な言葉、不道徳な行為、無秩序な服装などがいたる所で見られ、標準や理想などといった言葉には縁のない生徒がひしめいていました。しかし、ごく少数の末日聖徒は、彼らが信じていることも含めて、教師や生徒から認められ、尊敬を受けました。だからから笑いものにされたり、からかわれたりすることはありませんでした。事実、「モルモンはそういうことをしないんです」と言えたので、不健全な遊びを簡単に避けることができました。

このように進んで福音をテーマにした研究を行ない、末日聖徒の教えを広めましたが、おそらくこれらの経験が基になって、カレンはブリガム・ヤング大学の待生でありながら現在学業を中断してスペインで伝道し、スーザンは2, 3カ月後に迫った宣教師の召しを待つことになったのでしよう。

主の偉大な予言者は、すべての教会員が宣教師となるように求めています。もしすべての末日聖徒の学生が教会について毎年ひとつのレポートを書くか、研究発表を行なうとすれば、教師や生徒たちにどれほどの影響を与えることになるか、想像できますか。教会員が大勢いる地域でさえ、多くの非教会員は福音の教えについての末日聖徒の発表を直接耳にしたことはないのです。この伝道方法により歩みを速め、キンボール大管長の期待に応えるのが何と容易になるのでしょうか。ぜひ試して下さい。それができない人は、愛する予言者のオフィスに掲げられている座右銘“*Do it!*”(実行せよ!)を思い浮かべて下さい。

監督，父，



ヨット

デビッド・ハモンド

「**落**ち着け！」自分自身にそう言い聞かせるのだが、気がついてみると、指がいのすの細いひじかけを小刻みにたたいている。上体をよじらせて右の方を見ると、ライトブルーの壁には大管長会の写真が飾られていた。「落ち着け、もう賽は投げられたのだ。」

やがて、聞き覚えのある声が廊下を隔てた書記室の方から聞こえてきた。その声が次第に大きくなって、ドアから笑顔がのぞいた。「やあジェフ、元気かい。」

「ええ、元気です。」そう快活に答えたものの、心の中から別の自分が顔を出す。「一体お前はここで何をしているんだ？」

スミス監督は重そうないすをデスクの後ろから持ち上げて私の脇に置き、深々と腰をおろした。大柄な人である。太っている。笑うと、体全体が笑う。私は、彼の体から発散される温い光に包まれながら、こう切り出した。「監督、どうも思ったようにうまくいきません。先月話し合ったことについ

ていろいろと考えてはみたんですが、正直言って、伝道に出るのは無理ですね。」

「自分で考えて無理だと思うわけだね。」

「ええ。今22ですから、帰ると24歳です。年を取り過ぎてますよ。」

「年を取り過ぎていって、何のために？」

「監督、御存じでしょう。私は州立大学の農芸科を優秀な成績で卒業しました。ゴトリーブ教授の上級植物病理学のゼミで四苦八苦していた時にまだ高校2年だったような連中と一緒に伝道生活を送るなんてまっぴらですよ。私は小麦の胚種について、どんなことでもわかるんですよ。」

監督はじっと私の顔を見つめていたが、やがて、身を乗り出すようにして、静かな口調でこう言った。「それが本当の理由なのかね。」

私は返答に窮した。てっきりこぼれるような笑顔で承諾してくれるものと思っていたからである。「え、ええ、大体は……」私

「先日話し合ったことについていろいろと考えてはみたんですが、正直言って、伝道に出るのは無理ですね。」

はどもりながら「つ、つまり、基本的には
そうです」とつけ加えた。

「ジェフ、私たちはこれまで何度かこの
ことについて真剣に話し合ってきたね。こ
の基本的な理由のほかには何か理由としてあ
げるものがあつたら、言ってくれないか。」
監督が背もたれに寄りかかると、いすがキ
ーッと音をたてた。

「ええ？もうおわかりでしょう。私はこ
れまでの人生で、決して最良の決定ばかり
をしてきたとは言えません。7年間不活発
で通したことは何の益にもなりませんで
したし……。そんな私が求道者に、日曜学校
が大好きです、とか、知恵の言葉の大切さ
を身をもって体験してきました、とかどう
して言えるでしょうか。目標、主に対する
忠誠、証。とてもじゃないけど、そんなこ
と話せませんよ。」

「改宗した人ならだれでも証はあるし、
目標や主に対する忠誠ということも体験し

私の親は理解のある方で、これまで
でどんなことでもよく話し合っ
てきた。私が神権会そして日曜学校、
そして教会そのものにまったく行
かなくなった時でも、彼らは何も
言わなかつただろう。でも私は彼
らの愛をひしひしと感じていた。

てきているはずだよ。それにみんながみん
な活発で通ってきているとは限らない。」

「でも彼らは仲間に加わることを選びま
した。離れることではなくて。」

「君は戻ることを選んだだろう。」

私には返す言葉がなかった。聞こえてく
るのは廊下のざわめきだけ。

少しして、監督が静かな口調でこう言っ
た。「君の気持ちがまだよく理解できない
な。自分がふさわしいかどうかで悩んでい
るのかな。」

私はきっぱりと言った。「監督、私は人生
の再スタートを切りました。もう何も隠し
だてすることはありません。私は主が私の
ことを愛して下さっていることを知ってい
ますし、私も主を愛しています。でも聖餐
会や総大会、そのほかどのような場所でも
そうなのですが、私には、主が宣教師とし
て最も強い、最も信頼のおける、とにかく
ベストの人物だけを求めておられるように
思えるんです。」

「なるほど。少し謎が解けてきたかな。」
監督は少し間を置くと、両手の太い指をか
らませながら言った。「このことについてお
父さんにもう話してあるのかい？」

「ほんの少しだけです。ほとんど話して
いないと言った方がいいかもしれません。
今晚ここに来るということは話しましたけ
ど。」

「ジェフ、お父さんに話すべき時が来た
んじゃないかな。私は君のお父さんをよく
知っている。いい方だよ。お父さんと話し
たらまた会おう。いいね。」

こうして監督との面接は、まったく予想
もしない方向へ展開していった。どうすれ

ば良いのだろうか。「わかりました。」私は一応そう答えると席を立った。監督はドアの所まで来て握手をし、そして言った。「また私に会いに来ることを忘れないでね。」

教会を出た私は、友達と会おうと思った。そうだ、大学の温室へ行こう。大学はもう卒業していたが、まだゴトリブ教授のヒマワリの研究の手伝いをしていたのだ。

温室に入ると心が安らぐ。中にはだれもいなかった。そんな時、いつも心に浮かんでくるのは今までの自分の人生のことだ。私の親は理解のある方で、これまでどんなことでもよく話し合ってきた。私が神権会そして日曜学校、そして教会そのものにまったく行かなくなった時でも、彼らは何も言わなかった。もちろん心中穏やかではなかっただろう。でも私は、彼らの愛をひしひしと感じていた。だから彼らのそうした気持ちを無視したことは決してなかった。ただ、学校が忙しくなって次第に教会から足が遠のいたのである。だから、ふたりの偉大なホームティーチャーのおかげで教会に戻るようになった時も、そのことについてとり立てて口にすることもなかった。思い出すのは、インスティテュートの集まりに一緒に行ってくれるように父に頼んだ時のことである。父はしばらくポカンとしていた。そしてこう言った。「お前、本当に行くのか。」

家に帰ると電気が消えていて、車もなかった。しかし、裏庭の電気がついているのが目に入った。車をおりて裏へまわると父がいた。自慢のヨットの手入れをしている。子供の頃、北の方にあるロレイン湖によく出かけたものだ。ヨットはあまり大きな

いので、一度にひとりしか乗れない。何度も何度も転覆して、ヨットの上よりも水の中で過ごした時間の方が長いくらいだ。でも今は、皆成長してそれぞれに忙しくなり、ヨット遊びもあまりしなくなった。

しかし、子供が皆家を離れた今、父はまたヨットに凝り始めた。つい数週間前も、ペンキ塗りを手伝わされたばかりだった。

「ようそろ！」

「何だ、びっくりするじゃないか。ちょっといい、手伝ってくれないか。」

「オーケー。ちょうどこの辺を通りかかって、ちょっと寄った方がいいと感じたんだよ。お母さんは？」

「ああ、近所の家に行ってるよ。スミス監督と会ったのか？」

「何か遠まわしな質問の仕方をするじゃない？」

「悪かった。いや、ちょうどお前のことを考えていたもんだから。ほら、ここのと

「お前が決めなくちゃいけない。お前と神様との問題だ。自分の将来について、また伝道のことについて神様と語り合ったことはあるのかい？」

「答えがあると思う？」

「約束するよ。」

ころ、やすりをかけてくれないか。」父はそう言って、目の細い黄色の紙やすりを差し出した。

「お父さん、どんなこと話したか知りたいの？」私はやすりを動かしながら尋ねた。

「年を取り過ぎていたと言ったのかい？」

「そう。」

「それで監督はまんまとわなにはまったかな？」

ふり向くと、父はニヤリとした。私は言った。「いや、監督はちょっとやさそとではわなにはまらないよ。お父さんもそうでしょう。」

「そうだな。で、お前はどのようなんだ。」

私は船尾の方にまわって腰をおろした。

「わからないな。どうしたらいいと思う？」

「大切なのは、お前がどう考えるかだ。お前が決めなくちゃいけない。お前と神様との問題だ。自分の将来について、また伝道のことについて神様と語り合ったことはあるのかい？」

父のその言葉は、胸に重くのしかかってきた。「いや、まだ。」小声でそう答えたつもりが、やけにあたりを響く。それほど静寂だった。

「何かそうできない理由があるのかな。」

「答えがないんじゃないかと思ってね。前に裏切ってるから。」

父は黙ってまたやすりをかけ始めた。見上げると、宵の明星がきらきらと輝いている。

「どうだ、きれいになったじゃないか。」ふいに父はそう言った。「ほんと、見事だね。」

「どうだ、また湖に行くか。」

「ああ、いつでもいいよ。」

「また沈むかもしれんぞ。」

「またそれを言う。」私は笑った。「今度は大丈夫だよ。」

「いや、前例が前例だからな。」

「でも見てよ、お父さん。」私は言った。

「こんな素晴らしいヨット、ほかにもある？これを操れなかったら男じゃないよ。」

それから、私は父の目をまっすぐ見て言った。「お父さん、僕に何か言いたいことがあるんでしょ。」

「ジェフ、失敗はだれにでもある。問題はその人が初心に戻ってもう一度やり直すかどうかだ。」

「そうだね。」

「どうだい、主に尋ねてみたら？」

「答えがあると思う？」

「約束するよ。」

「ありがとう、お父さん。」私は、まだやすりを握っている父の手を見つめながら、そう答えた。

「そうだ、お祈りをする前に断食をした方がいいかもしれないな。お父さんお母さんも喜んで一緒に断食するよ。」

アパートへの帰りの車の窓からは、満開のリンゴの花が月明かりにほの白く浮かび上がるの見える。そして何とも言えない香りがあたりに漂っている。そうだ、断食をする前に片付けておかなければならないことがある。まず監督に電話をすることだ。監督は、思ったより早いので驚くかもしれない。でも、今度はきれいさっぱり、何の口実も考えなくてよさそうだ。

私が一番勇気づけられ、奮い立たされる経験は、自分のことを本当に理解している若者と会うことです。自分がどのような人間になるつもりかを決心し、みこころにかなうような神の子となるために勇氣をもって社会の圧力に打ち勝っている若者に会うことです。私はそのような若者に

会うと、自分の証だけでなく、将来に対する確信と信頼までも強められるのを覚えます。

ある時私は、ひとりの若い水兵に会いました。彼はスコットランドに基地を置く原子力潜水艦の乗組員で、しかもただひとりの末日聖徒イエス・キリスト教会の会員で

山の上のあかり

管理監督

ビクター・L・ブラウン



した。その潜水艦は、何週間にもわたる長い航海に出るのが習わしでした。この若い教会員は、彼にとって初めての巡航で持ち場を割り当てられた時、持ち場の壁いっぱいに肌をあらわにした女性の写真が貼ってあるのに出くわしました。前に他の乗組員が貼ったのでしょう。彼には不快なものでした。彼はその写真を全部はぎ取ると、破り捨ててしまいました。他の乗組員の反応が気にはなりましたが、それでも自分がこうすべきだと思ったことは実行する勇気が彼にはあったのです。それからは、1枚もそのような写真が貼られることはありませんでした。実際のところ、その最初の巡航で、彼は乗組員が2、3人出席する日曜学校のクラスを教えるようになりました。そして大切な教訓を学びました。それは、概して、人は自分の正しいと信ずるところに従って行動する人、つまり自分が正しいと思っていることを恐れず実行する人に敬意を払うということです。

またある時には、14歳の超一流少年テニス選手に会いました。この少年は、幾つかの州が参加するある地域のテニストーナメントにおいて、全試合に勝利を収めました。そして、遠くの町で行なわれる予定の非常に大切なトーナメントの準決勝戦まで勝ち進みました。試合の行なわれる町に着くと、彼は自分の試合が日曜日に予定されていることを知りました。彼は審判員のところへ行くと、自分は日曜日にテニスはしないと話しました。当然のことながら、彼は、もしこのトーナメントに参加したければ、日曜日でも試合をするはずだと告げられます。彼は、試合に出なければ試合を放棄するこ

とになることを承知の上で、もう一度、日曜日に試合をする訳にはいかないことを話しました。ところがたまたま日曜日は雨で、試合は順延となりました。彼は月曜日に試合に臨み、見事勝利を手に入れました。

それから彼は、全大西洋沿岸地区の選手権大会に出場するため、他の出場者たちと共にバスで別の大きな町に向かいました。一行は、日曜日に大会の行なわれる町に着きました。到着するとすぐ、コーチは選手たちにコートに出て練習をするように命じました。しかし、この少年はコートに出て行きませんでした。そこでコーチは彼に、なぜ練習をしないのかとたずねました。彼は、「僕は日曜日にテニスはしないのです」と答えました。するとコーチはその理由を聞きました。彼の答えはこうでした。「僕はモルモンなんです。」

彼は何よりも自分のクラスの選手権を取りたかったのだらうと思います。しかし彼は、安息日を聖く守ることが、テニスで優勝者になることよりもっと大切だと自分で決めたのです。彼は自分というものを知り、教わった原則にしたがって生きる勇気と信念を持っていました。そして、周囲から何と言われようと、自分なりの決断を下したのでした。

このような例もあります。あるローレルクラスの会長は、自分に課せられた責任を果たそうとひとりの姉妹を活発にする決心をしました。その姉妹は、指導者からさえほとんど望みがないと思われていました。監督は彼女に、家庭の事情やその他の理由から、その姉妹が教会に来る見込みはまずないだらうと話しました。クラスの姉妹た

ちも、その姉妹が教会にもどってくるように助けることがクラス会長の目標のひとつであることを知ると、ばかにして笑いました。

それにもめげず、このクラス会長は、その姉妹と友達になる決心をしました。そして、近くに住む姉妹に助けを求めました。ふたりはまず、その姉妹を見かけると必ず声をかけ、少しの時間でも話すことから始めました。それからその姉妹を訪問するための口実をさがしました。そんな時、彼女が高校のレスリングチームの応援団の一員に選ばれたのです。クラス会長は、さっそくお祝いのカードを添えた花をその姉妹に届けました。このような働きかけが3～4カ月続きました。そして、やっとある日曜日、その姉妹が招きに応じて日曜学校に顔を見せてくれたのです。翌週も彼女は日曜学校に出席しました。さらに、その週はミュージュアルにも集いました。これは、ひとりのローレルの姉妹が、その勇気と信仰によって同年齢の姉妹に教会にもどる第一歩を踏み出させた例です。

次は、知恵と勇気と信仰が、ひとりの若い姉妹の生活に表わされている例です。この女性は仕事で大変成功していました。しかし、一般に結婚適齢期と言われている年よりは少し年を取っていました。彼女はもっと若い時に、もし結婚するなら絶対に神殿でしようと決心していたからです。彼女が住んでいた地域には、独身の男性教会員はほとんどいませんでした。私は、彼女がもう結婚をあきらめたものと思っていました。ところがある日、彼女はひとりの若い男性と出会いました。その男性は教会員ではありませんでしたが、彼女は彼と交際し

ました。そして、ふたりは互いに愛し合うようになりました。彼から結婚の申込みがあった時、彼女は、自分も彼と結婚したいこと、それもどうしても神殿結婚をしたいことを話しました。彼は宣教師からレッスンを受けることに同意し、やがて改宗してバプテスマを受けました。ふたりは、神殿で結婚するのにふさわしい生活をしながら1年間待ちました。結婚式の日、私は彼女の姿を見て、こんなにも美しく幸せな花嫁さんはいないと思いました。彼女はずっと以前から、どうしても永遠の祝福にあずかるのだと決心していました。そしてこの日、どうにもならない障害があったにもかかわらず、この最も大切な永遠の目的を達成したという言い知れぬ気持ちを実感として味わったのです。

今日の社会は、どこへ行っても矛盾で混乱しています。そのような中で、人生に目的と方向を持っている人は老若を問わず、本当に幸せな人です。以上の例は、本当の自分を知った時に若者に何ができるかというわずかの例にすぎませんが、彼らは実際に周囲の人々みんなにとって山の上のあかりになっています。すべての若い末日聖徒が、勉強と祈りによって救い主と自分との真の関係について、また福音について証を得ることが、私の望みであり心からの願いです。そうなれば、教会の若人は、社会に対して今以上に多大な善い影響を及ぼす存在となるでしょう。またそれと共に、天父からのみ得られる、「人知ではとうてい測り知るこののできない」(ピリピ4:7)心の平安を得ることができるよう。

ふるさとの野山が明るくさわやかな春の息吹に包まれた頃、マイケル・C・トルマンはアイダホ州サモンの小さな安らぎの墓地で永い眠りについた。墓石には「1957年5月25日生、1979年5月1日没」と刻まれていた。マイク・トルマンは、アイダホ州中部にある牧場の6人兄弟の3番目として生まれた。馬に乗ることやハイキング、キャンプが好きな青年だった。

マイクは宣教師になり、すぐれた働きをした。家族に寄せられた手紙の中で、彼と共に働いた宣教師仲間のひとり、マイクには「日の光栄の宣教師」という名がぴったりにであると述べ、神の僕として最高の敬意を表わしていた。これはマイクに実にふさわしい名前である。

トルマン長老は1976年6月に、合衆国のバージニア・ロアノーク伝道部で宣教師と

日の光栄の宣教師

ジョン・ジャービス



して働くことになった。ジョセフ・マクフィー伝道部長夫妻は、トルマン長老が伝道部入りした最初の日から、彼が主と特別なつながりを持った人物であることを感じ取ったのだ。ふたりは、トルマン長老が「私たちや同僚の宣教師すべてを鼓舞するような愛と謙遜さ、敬虔さ」を放っていたと語っている。

マクフィー伝道部長の後任のフランク・モスコ伝道部長は、トルマン長老を安心して任せられる宣教師と見ていた。彼はマイク・トルマンが、義しいことを進んで行なう人物であることを知っていたのである。1977年8月に、モスコ伝道部長はトルマン長老をゾーンリーダーに召し、それから数カ月後に伝道部長補佐として召した。彼の働きはそれほど素晴らしいものだった。ところが、補佐としての責任に移らないうちに、マイケル・トルマン長老の内部を厳しい試練が襲ったのである。

1978年1月30日にモスコ部長は、トルマン長老が働いている地域から、緊急事態を告げる電話を受け取った。トルマン長老が胸と胃の激痛で倒れたというのである。片方の肺全体に水がたまったということだった。抜き取った水は2リットルにも達した。トルマン長老は精密検査のためにロアノークに送られた。伝道部長は、彼が2カ月以上も前から体に痛みを訴えていたことを知った。そして、これまで3回ほど医師に見せたが、その都度診断の結果が違っていた。それっきり、彼は診察に行かなかった。その医師というのが、宣教師を無料で見てくれる人であったので、トルマン長老は医師に負担をかけているのではないかと思ったからである。「この病気が治るか、行きつくところまで行くか、どちらかになるような

気がする」と、後に彼は両親に話している。

ロアノークでの検査の結果はショッキングなものであった。癌だったのである。知らせを聞いて、トルマン長老の両親と、サモン・アイダホステーク部サモン第二ワード部のジェームズ・レックス・トルマン兄弟姉妹が駆けつけてきた。手術が行なわれ、癌に冒された部分が肺から大きくえぐり取られた。ほかに2カ所が取り除かれた。手術後の経過はよかった。伝道に燃える熱意が手術の回復を早めたのであろう。ワード部の人たちからはトルマン家族に絶えず励ましを送られてきたし、バージニアをはじめ、合衆国各地からカードや手紙が寄せられた。しかしトルマン長老が気がかりだったのはただひとつ、「家に帰らなければならぬのだろうか」ということであった。

医師から、放射線治療のためにソルトレーク・シティに移ったらどうかと言われた時、トルマン長老は首を振った。「私をバージニアのこの地において下さい。治療を受けながらも伝道を続けたいのです。」そこでモスコ部長は、彼が伝道活動に戻れる見込みがあるかどうか内密に尋ねてみた。しかし医師団の態度は固かった。望みは全くなかったのである。それほどに、トルマン長老の病気は命を脅かしていたのである。

トルマン長老が家族に連れられてロアノーク伝道本部を去る時、父親のトルマン兄弟はモスコ部長にこう言い残した。

「もしマイクが戻らない時には、彼の自転車をごなたが必要な長老に差し上げて下さい。」その父親の言葉を息子は静かに、しかしはっきりとした口調で訂正した。「お父さん、なぜそんな言い方をするのですか。私は戻ってきて、その自転車で何をするか考えようと思っているのですから。」

こうしてトルマン長老は、バージニア・ロアノーク伝道部を後にした。しかし、ソルトレーク・シティーに向かう飛行機に乗ったトルマン長老のスーツケースの中には、伝道部のすべての宣教師の名前と住所、それに伝道本部用の便せんの束が入っていた。こうしてトルマン長老は、モスコン部長の補佐として、病院のベッドから定期的に、それから3カ月間手紙を送った。この間彼は伝道部の柱とも言える存在であった。宣教師たちは彼に励まされ、チャレンジに立ち向かおうという気持ちを起こしていた。モスコン部長は、宣教師大会で宣教師たちが、トルマン長老から手紙をもらったことが伝道の大きな力となったと証するのを聞いたときに、胸の熱くなるのを覚えるのだった。多くの人が、トルマン長老を模範としていた。ある長老はこう言っている。「足をけがしたり、何か落胆することがあったりしても、伝道の業が低滞することはありません。それは、『トルマン長老にできるのであれば私にもできるはず!』と思うようにしているからです。」トルマン長老のおかげで伝道部はひとつとなり、大きな発展を遂げた。バプテスマの数は1カ月128人にもなった。しかし、これらはすべて、「日の光栄の宣教師」がバージニア・ロアノーク伝道部の人々に対して捧げた最後の大きいなる働きの、ほんの始まりにすぎなかったのである。

トルマン長老が悔いを残しながらバージニアの任地を引き上げ、家に帰ってから3カ月後の1978年4月27日、外出から戻ったモスコン部長は、伝言板に目をとめた。「トルマン長老2時間後に空港に到着予定。出迎えをお願いします。」トルマン長老は約束通り戻ってきたのである。間もなくして、ソ

ルトレーク・シティーの教会伝道委員会から、詳しい説明の電話が入った。トルマン長老は癌の治療を4週間休んで様子を見ることになっていた。その彼が直接伝道委員会に行き、宣教師として任地に戻れるよう嘆願したのだという。「伝道部長、私共には彼の申し出でを拒むことができませんでした」それが委員会の説明だった。

トルマン長老はロアノークに到着するや、満面に笑みを浮かべてモスコン部長にあいさつした。

「私はどこにまいりましょう?伝道部長。」これが、彼の何よりも知りたいことだった。「全部に行ってくれ。」部長の答えが返ってきた。こうしてトルマン長老は伝道部内を巡り、宣教師たちと伝道活動に励む一方、宣教師大会、ステーキ部やワード部の集会、ファイアサイドでの話をしてまわったのである。トルマン長老の後任として伝道部長補佐になったユタ州バウンテフル出身のジョセフ・ドレイパー長老は、トルマン長老と共に旅をし、彼の語る力強い証に深く心を動かされたという。「彼は私だけでなく、彼の話と証に耳を傾けるすべての人にとって、靈感の塊かたまりのような人でした。彼は試練を通して実に驚くほどの強さを体得していました。」また、カリフォルニアのビエホ伝道部から来たヴァル・チャディック・バグレー長老は、この時期にトルマン長老と共に働いたひとりであるが、日記にこう書いている。

「私たちはチラシ配りをした。もちろん彼も。彼はこれがとても好きだ。……それに、機会というものを大切にしている。彼と一緒にチラシ配りをするのは楽しい。彼に腹を立てる人はだれもいないだろう。」

カリフォルニアのエルセントロのゴード

ン・ジョンソン長老は、バプテスマについて話している。「私たちはトルマン長老が来る前から5カ月にわたってパートメンバーの家族を教えていました。家族の中で教会員の人たちが教会に行っている間に、長老は残りの家族に福音を教えてくれたのです。」また、別の若い4人家族の人たちも彼のおかげでバプテスマを受けた。ジョンソン長老は、マイク・トルマンについてこう述べている。「自分の持てるものはすべて捧げるといほど深く主と人々を愛した人です。人に仕えるためには、何でも喜んで犠牲にしました。」

トルマン長老が訪問し、共に伝道活動をしたために、モスコン部長のもとには、長老の模範に感謝するという手紙がひっきりなしに届いた。バージニアのノーフォークのある婦人は、トルマン長老のうわさを耳にし、そのような若者が命を投げ出してまでも神について人々に教えようとしているとすれば、それは聴くに値するものだと思うたという。やがてこの婦人はバプテスマを受けることになった。

この最後のふんばりの数週間は、トルマン長老にとって決して楽なものではなかった。先の治療による痛みと、まだ残っている癌からくる痛みに始終苦しめられていたのである。伝道部内を車で一緒に訪問していたモスコン部長は、トルマン長老が激しい痛みを人に知れないよう必死にこらえているのに気づいた。モスコン部長は、すぐに運転席の長老に合図し、昼食にしようと言ってトルマン長老をしばらく休ませた。後にバグレー長老は語っている。「そんなにひどかったなんて信じられません。私たちと一緒にいる時でも、彼は苦しそうな顔ひとつしませんでした。」マイク・トルマンの

ただひとつの願いは、2年という伝道期間を、主のために最後まで立派に働き通すということであった。痛みのためにその働きをやめようとは思わなかったし、実際そうしなかった。

あと4週間という定められた伝道期間も終わりに近づくと、トルマン長老は何やら理由をつけて2週間延期した。その2週間もまた終わろうとする頃、トルマン長老は落ち着き、しかも希望にあふれた心持ちでモスコン部長のところへ行った。「伝道部長、私の伝道期間を延ばしていただませんか。」彼はそう頼んだ。「私は3カ月も入院してしまいました。私は2年間働くことを主と約束したのに、実際は1年9カ月しか働いていません。もう3カ月伝道したいのですが。」モスコン部長は彼とじっくり話をし、やっとのことで、彼の働きは主に受け入れられるに十分なものであったことを納得させたのだった。

1978年6月12日、この日はモスコン部長夫妻にとって、またバージニア・ロアノーク伝道部のすべての人にとってつらい日であった。トルマン長老が七十人第一定員会のロバート・D・ヘイルズ長老に伴われて帰途に就いたのである。トルマン長老は、命に代えても続けたいと願った2年間の伝道活動に、ついに別れを告げた。

それから1年もたたないうちに、マイク・トルマンの残された生涯はその幕を閉じた。アイダホのサモンにある墓石の裏には、彼の生前をしのばせる短い言葉が刻まれている。たとえ墓石に彼のすべてを刻むことができなくても、彼を知る人々の心の中に、生活の中に、彼は生き続けることだろう。彼らにとって、マイケル・C・トルマン長老はまさに「日の光栄の宣教師」であった。

—大管長会メッセージから—

新たに9つの神殿が

1981年4月1日、大管長会は特別なメッセージを発表した。これによると、新たに9つの神殿が建設される予定である。場所は、イリノイ州シカゴ、テキサス州ダラス、グアテマラのグアテマラ・シティー、ペルーのリマ、西ドイツのフランクフルト、スウェーデンのストックホルム、韓国のソウル、フィリピンのマニラ、南アフリカのヨハネスバーグと、5大陸にわたっている。

発表によれば、これらの神殿の敷地のいくつかはすでに見つかり、計画が整って許可が下り次第着工の予定である。

なお、これらの新しい神殿が完成すれば、世界中の神殿の数は全部で37になる。このうち21の神殿は、キンボール大管長の管理下にあるこの7年間に建設を確定されたものである。



トピックス



- テンプルスクウェアの隣に、新しく系図図書館と教会博物館が建設される。系図図書館は教会本部にある現在の図書館に代わるものであり、博物館は教会150年の歴史と歩みを物語るものとなる。
- 1966年頃からモルモン経の表紙の裏に自分の家族の写真、または証を書いて人々に贈るというプログラムが推し進められてきたが、この14年間にその部数が100万冊を上回った。

キンボール大管長 レーガン大統領を訪問

3月13日、キンボール大管長はホワイトハウスを訪れ、米大統領ロナルド・レーガン氏に、2インチ（約5センチ）の厚さの本にまとめられたレーガン家の家系図を贈呈した。

これによって、レーガン大統領の母方の先祖が勤勉で名の通った家系であること、また先祖の中に独立戦争の戦士もいたことなどが明らかになった。

同行した十二使徒定員会会員のゴードン・B・ヒンクレイ長老の報告によれば、レーガン大統領は家系図の贈呈を受けたことに心からの謝意を表し、「最近読書の時間もありませんが、これだけはぜひ読んでみたいという気持ちがありました」と語られたそうである。

キンボール大管長は、レーガン大統領がすべてにおいて公正な努力を尽くし、多くの支持を受けられるよう祈っ

ていることを告げた。これに対して大統領は、そのとりなしの祈りの重さを信じていると答えられた。

なお、同席したキンボール大管長の秘書D・アーサー・ヘイコック兄弟は、そのひとときが大変なごやかなもので、大統領も終始ていねいに応対されたことを伝えている。



(写真はチャーチニュースより転載)

50年間、ホームティーチャーの同僚として

チャーチニュース記者
ハル・ナイト

春夏秋冬、1度も休まずにホームティーチングを続けた兄弟たちがいる。アーネスト・L・スナイダー兄弟（72歳）とエドウィン・S・ブラウン兄弟（71歳）。このふたりは、何と50年間同僚を組んでいる。

幼なじみのふたりは高校も一緒に、1930年に初めてホームティーチングの同僚となった。当時はワード部の範囲が広がったため、車を持っている彼らにいつも遠距離の割り当てが回ってきたという。半世紀の間に担当家族も移り変わったが、いまだに20年間変わらずに訪問している家族もある。「奇跡というのはありませんでしたが、たくさんの人たちが教会に戻ってくるのを目にしましたよ」とふたりは語る。

現在ふたりは、主に老夫婦や未亡人を受け持っている。しかし時折ほかの人たちでは手に負えない家族がいると、彼らが面倒をみることになる。ふたりのホームティーチングは、まさに空港への出迎えから未亡人宅の侵入者捜しにまで及ぶ。「私たちはどこへ行っても歓迎されます」とスナイダー兄弟は述べている。

訪問は長ければよいというものではない。ふたりのモットーは、「簡潔は歓迎につながる」だそうである。



ブラウン兄弟（左）とスナイダー兄弟

50年の間にふたりとも監督に召されたが、監督の権能によって互いをホームティーチングの同僚に選んだという話も残っている。

退職した現在もふたりの間柄は変わらないが、ひとつだけ意見の違うことがある。それは、「いまだにどちらが先輩でどちらが後輩か決めかねる」ことだそうである。

新伝道部長召される

現在ハワイホノルル西ステーキ部で高等評議員の任にあるサム・K・島袋兄弟(55)が、日本仙台伝道部長に召された。

島袋兄弟はハワイのワイパフで、ウシ・シマブクロとカメ・ナカソネの息子として生を受けた。1957年10月30日、エイミー・ヒロセ・クロサワと

結婚。後に一子をもうけるが、1974年に死亡。現在夫妻は、ホノルルのアリアマヌワード部の会員である。

島袋兄弟は、ハワイ大学で学士号を取



得した後、ハワイ州労働部に勤務。教会では、監督、七十人定員会会長、日曜学校会長などを歴任している。また、1954—1957年にわたり、北部極東伝道部でフルタイム宣教師として働いた。

島袋姉妹は群馬県前橋で誕生。現在は教会で初等協会の教師の責任を受けている。姉妹はこれまでも、若い女性書記、扶助協会教師、ハワイ神殿職員として責任を果たしてきた。

(写真は島袋兄弟ご夫妻)

2つのステーキ部、誕生

去る4月21、23の両日、日本静岡ステーキ部と日本高松ステーキ部がそれぞれ組織された。これにより日本におけるステーキの数は18となった。

なお、ステーキ部長会のメンバーには以下の方々が召された。

日本静岡ステーキ部



第一副ステーキ部長
興津 俊夫



ステーキ部長
瀬野 忠愛



第二副ステーキ部長
松永 弘

日本高松ステーキ部



第一副ステーキ部長
田染 洋一



ステーキ部長
神崎 武二郎



第二副ステーキ部長
白石 靖行

「流氷まつり」にキリスト像

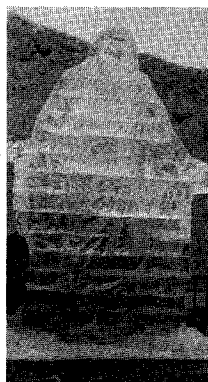
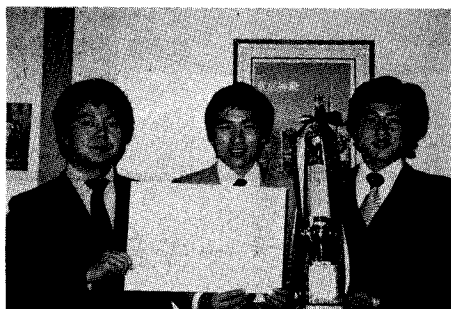
—釧路地方部網走支部—

去る2月7日より11日まで5日間にわたって催された網走市恒例の「流氷まつり」に網走支部よりイエス・キリストの氷像が出品された。大勢の兄弟たちの手により、2週間かけてつくられた傑作だ。彼らは連日、冷え込みのきびしい夜6時から9時までの3時間、その製作に一生けん命取り組んだ。

氷像作業を終えてくると体はすっかり冷え切っているが、いつも扶助協会の姉妹たちによる手づくりの温かい食事が待ち受けていた。これは何よりもうれしい回復剤だった。こうして支部の人たちの協力によって立派な氷像が出来上がり、主

催者側より、参加賞として実行委員長賞(賞状とトロフィー)をいただくことができた。

網走支部では、来年の「流氷まつり」にもぜひ参加したいと張り切っている。そして今からまた何を出品しようかと、楽しい意見が飛び交っているとか。北国ならではの話題である。



▲製作途中のキリスト像

◀賞状とトロフィーを手に



好記録続出のマラソン大会

—福岡ステーキ部—

第2回全日本モルモンマラソン大会が、3月20日、21日の両日、福岡ステーキ部主催で、昨年同様に福岡市志賀島において、開催された。

管理者は吉沢敏郎ステーキ部長、来賓として、中村武史日本伝道80周年祭委員長、

ソルトレーク・シティーからハトリック・マビン国際広報部長、そしてロイ・I・津谷福岡伝道部長御夫妻を迎えた。

大会は東京ステーキ部の鈴木茂次兄弟の力強い宣誓で開始された。当日はあいにくの小雨模様であったが、新記録続出という

奮戦ぶりをみせた。20kmロードレースでは、1位、2位とも記録を更新し、特に1位は3分も記録を縮めた。そして10kmのレースでは1位から7位までが昨年の記録を上回るという快挙である。

また、女性の進出もめざましく、昨年は参加者皆無であったが、今回は10kmで4名の参加があり、トップの女性選手は88人中48位という健闘ぶりであった。

今回も教会員以外の方々にも参加いただき、好評を博した模様である。

主催者側では、来年もたくさんの人々の参

加を期待しているということである。

〈20kmロードレース〉

優勝 西垣ゆたか 名古屋ステーキ部
1時間9分43秒(大会新)

〈10kmロードレース〉

優勝 松本 淳 名古屋ステーキ部
36分0秒(大会新)

〈2km家族・姉妹コース〉

優勝

浜村しのぶ 福岡ステーキ部(姉妹の部)

江藤 司 福岡ステーキ部(子供の部)

熱の込もった剣道試合

—広島地方部—

第1回全国モルモン剣道大会が、3月28日、広島地方部主催で広島県立体育館武道場において開かれた。全国から選抜選手25名(内女子5名)の参加があり、選手の中には7段という高段者もいれば、学生時代の勘を取り戻すために猛練習に励んだ人まで様々である。

午前9時、岡山伝道部の岩重兄弟の選手宣誓により熱戦の火ぶたが切られた。試合に先立ち本大会委員長である村岡6段と堀川7段の模範試合、続いてトーナメント方式で、いよいよ試合開始。各選手、思い切った試合展開を見せ、すがすがしい声が館内に響きわたった。

試合後、証会がもたれ、ある選手は、「自分は教会に入って時間的な関係で剣道はあきらめていた。けれど、このような形で同じ信仰をもつ者同士で、剣道を楽しむこと



参加者の兄弟姉妹

ができてとても嬉しい」と語っていた。

主催者である成林広島地方部長は、「これからもずっとこの大会を続けていきたい」と剣道大会にかける意気込みを見せてくれた。来年の大会も期待したい。

〈男子個人〉

優勝 山下 晴久(福岡ステーキ部)

〈女子個人〉

優勝 河内 博美(岡山伝道部)

〈団体〉

優勝 名古屋伝道部(谷口, 野崎, 堀川)

